

令和5年度
県民アンケート調査
報告書

<概要版>

令和5年12月

奈良県

—目次—

第1章 調査の実施概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の設計	1
4. 調査票の配布・回収の状況	1
第2章 調査結果の分析	3
1. 県民の生活全般について	3
1-1 現在の暮らし向きの実感	3
1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感	4
1-3 1年前と比較して暮らし向きの実感が変化した理由	5
1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無	7
1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容	8
1-6 奈良県の住みやすさの評価	9
1-7 将来の奈良県での定住意向	10
1-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由	11
2. 県民の生活に関する重要度・満足度について（問11 5段階ポイント評価）	13
3～8. 県民の生活に関する意識やニーズについて	21
3. 観光【賑わう「都」をつくる】	21
4. 農林業【栄える「都」をつくる】	25
5. 暮らしやすいまちづくり【愉しむ「都」をつくる】	27
6. 少子化対策【愉しむ「都」をつくる】	29
7. 健康づくり【健やかな「都」をつくる】	30
8. 文化振興【智慧の「都」をつくる】	34
9. 回答者に関すること	39

第1章 調査の実施概要

1. 調査の目的

身近な生活に関する事柄についての重要度・満足度のほか、「観光」や「農林業」等に関する意識やニーズを把握し、今後の県政運営の基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

2. 調査項目

県民の生活全般に関する項目、県の取組・県内の改善状況についての評価を5段階で問う項目、県民にとって身近な生活に関する項目についての重要度と満足度を5段階で問う項目、「観光」や「農林業」等に関する意識やニーズ及び回答者の属性を問うフェイスシートから構成されています。

3. 調査の設計

- ◇調査地域 奈良県全域
- ◇調査対象 県内在住の満20歳以上の男女・個人
- ◇調査標本数 5,000人
- ◇調査抽出法 層化二段無作為抽出法
- ◇調査方法 郵送配布・郵送回収・オンライン回答フォームによる回答受付
- ◇調査時期 令和5年6月17日(土)～7月6日(木)

4. 調査票の配布・回収の状況

- ◇配布件数 5,000件
- ◇有効回答数(率) 2,455件(49.1%)

■ライフステージの区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
若者	20～29歳で、「夫婦のみの世帯」以外の世帯(うち「未婚」または「離婚・死別」で、子どもがいない世帯)の回答者	95	3.9%
独身	30～64歳で、「夫婦のみの世帯」以外の世帯(「うち未婚」または「離婚・死別」で、子どもがいない世帯)の回答者	332	13.5%
夫婦	20～64歳で、「夫婦のみの世帯」(うち子どもがいない世帯)の回答者	216	8.8%
育児期	小学校入学前の子どもがいる世帯の回答者	177	7.2%
教育期前期	小・中学生、高校生、高専生の子どもがいる世帯の回答者	396	16.1%
教育期後期	専門学校生・短大生・予備校生・大学生(院生)の子どもがいる世帯の回答者	207	8.4%
単身高齢者	65歳以上の単身世帯の回答者	142	5.8%
高齢者夫婦	65歳以上の夫婦のみの世帯の回答者	524	21.3%
非該当又は無回答		543	22.1%
合計 ^{※注}		2,632	-
有効回答数		2,455	100.0%

(注) ライフステージ区分は、「年齢」、「世帯構成」、「子どもの成長段階」の複数の要素を組み合わせて設定している。2人以上の子どもがいる場合、複数の区分に該当するため、合計は有効回答数(2,455件)と一致しない。

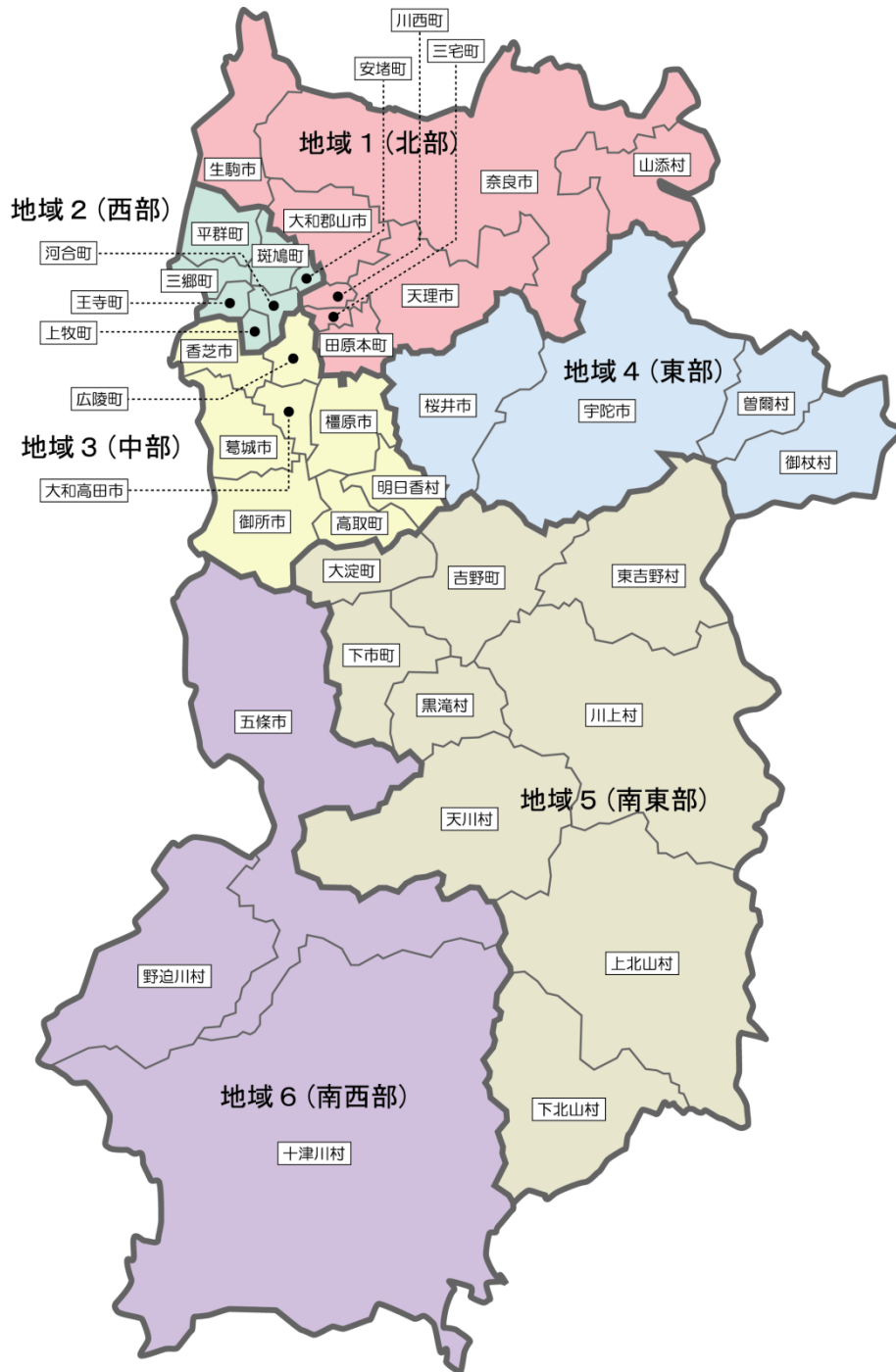
■旧住民・新住民の区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
旧住民(奈良県にずっと住んでいる人)	生まれたときから奈良県に住んでいる回答者	1,316	53.6%
新住民(奈良県に新しくきた人)	生まれたときは奈良県に住んでおらず、移住してきた回答者	1,077	43.9%
無回答		62	2.5%
合計		2,455	100.0%

■奈良での就労区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
奈良県内で働いている人	就労場所が奈良県内の回答者	1,064	43.3%
奈良県外で働いている人	就労場所が奈良県外の回答者	348	14.2%
非該当又は無回答		1,043	42.5%
合計		2,455	100.0%

地域の区分



区分名	該当市町村名	有効回答数	構成比
地域1(北部)	奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西町・三宅町・田原本町	1,196	48.7%
地域2(西部)	平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町	223	9.1%
地域3(中部)	大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町	607	24.7%
地域4(東部)	桜井市・宇陀市・曾爾村・御杖村	159	6.5%
地域5(南東部)	吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村	186	7.6%
地域6(南西部)	五條市・野迫川村・十津川村	84	3.4%
合 計		2,455	100.0%

第2章 調査結果の分析

1. 県民の生活全般について

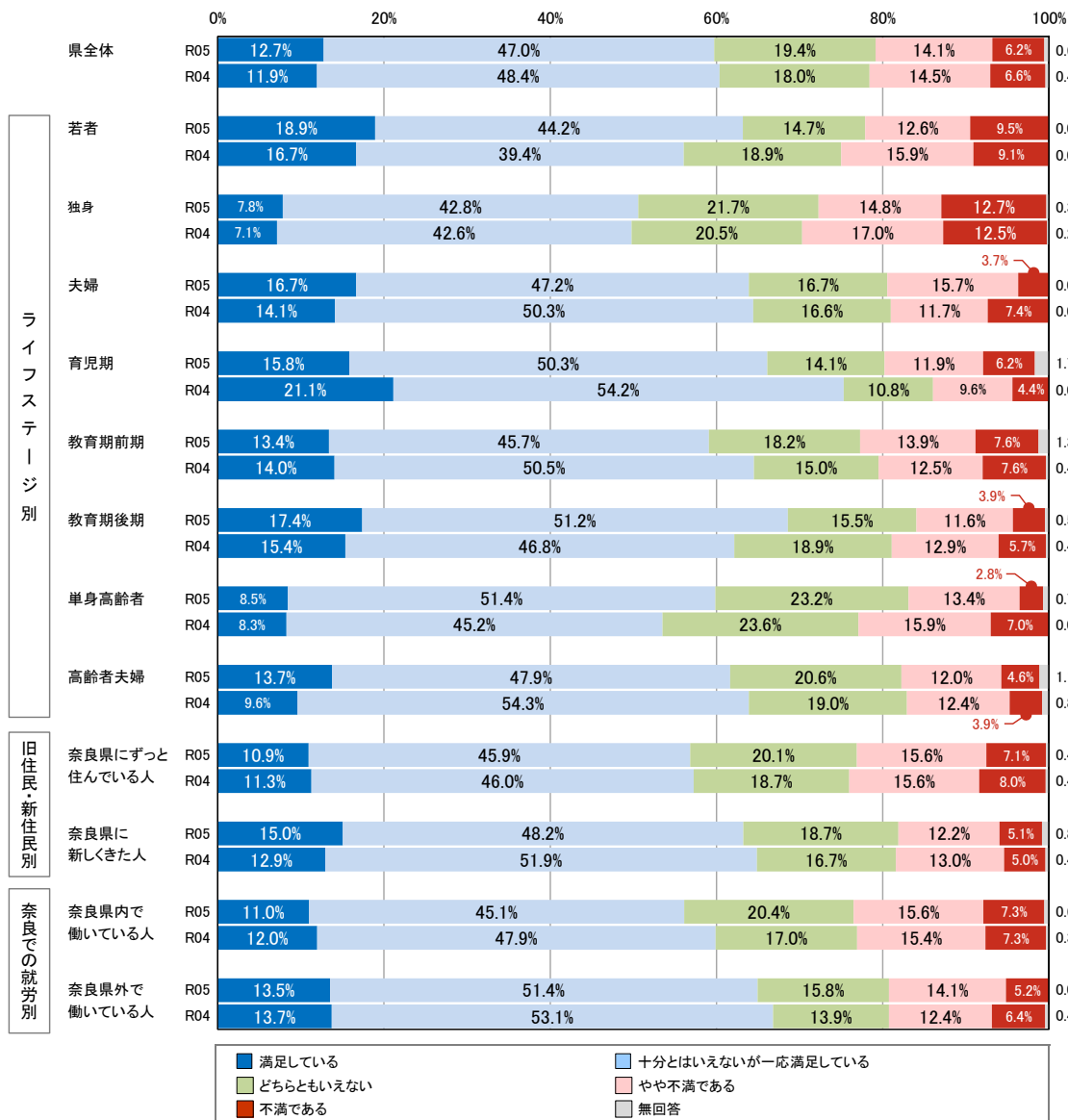
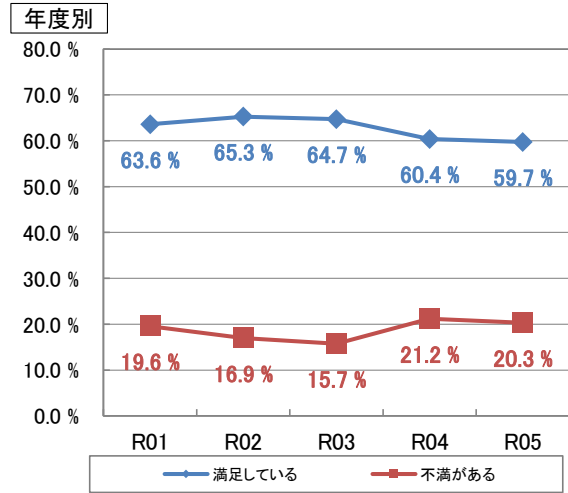
1-1 現在の暮らし向きの実感 (問1)

■「満足」（「満足している」+「十分とはいえないが一応満足している」）している人は59.7%で、令和4年度と比較すると、0.7ポイント減少と横ばいです。「不満」（「やや不満である」+「不満である」）を抱えている人は20.3%で、令和4年度と比較すると、0.9ポイント減少と、こちらも横ばいとなっています。

■ライフステージ別に見ると、「満足」している人が最も多いのは『教育期後期』（68.6%）となっています。一方、「不満」を抱えている人が最も多いのは『独身』（27.4%）となっています。

■旧住民・新住民別に見ると、「満足」している人は、『奈良県に新しくきた人』（63.2%）が『奈良県にずっと住んでいる人』（56.8%）と比べ多くなっています。

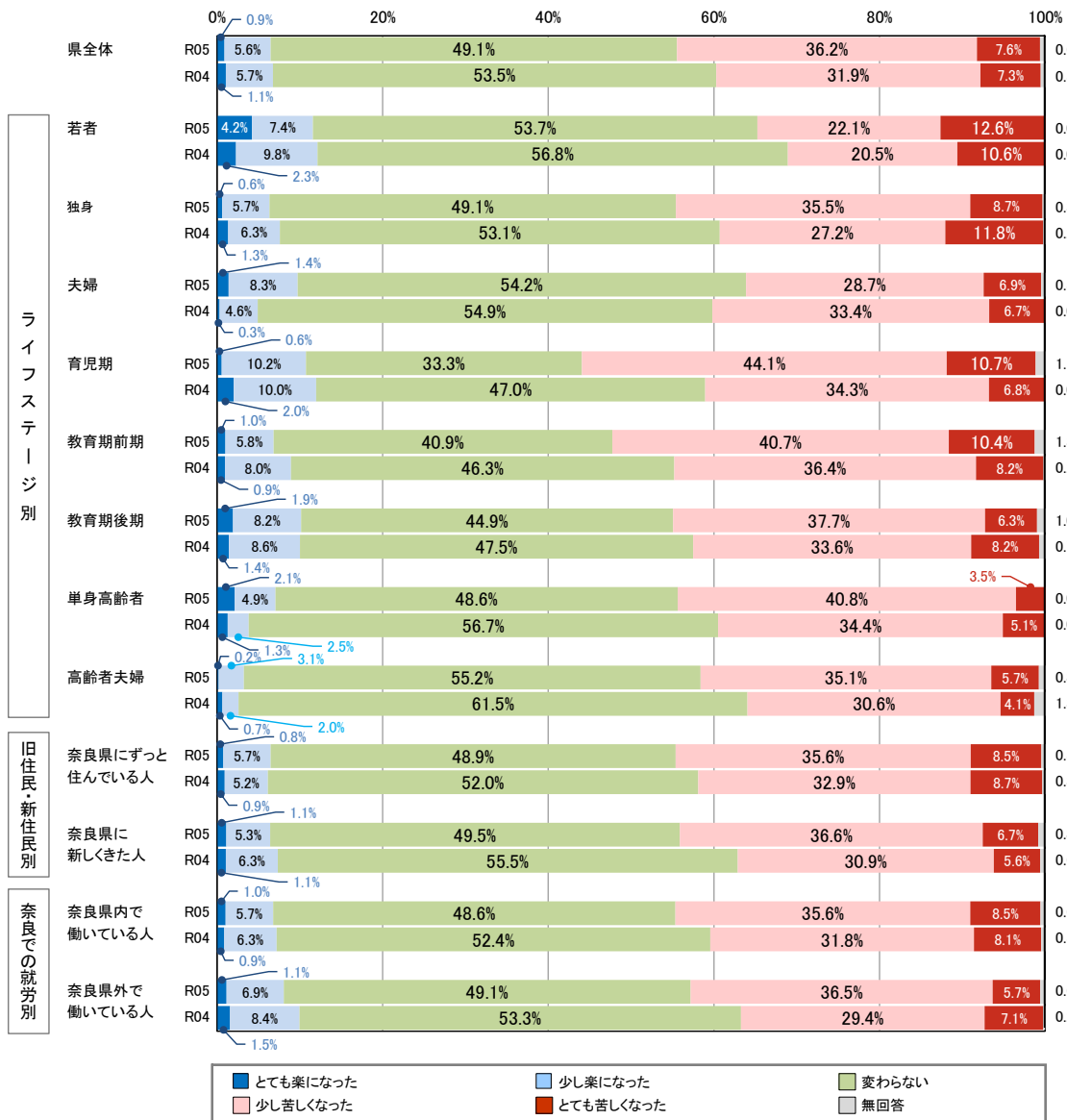
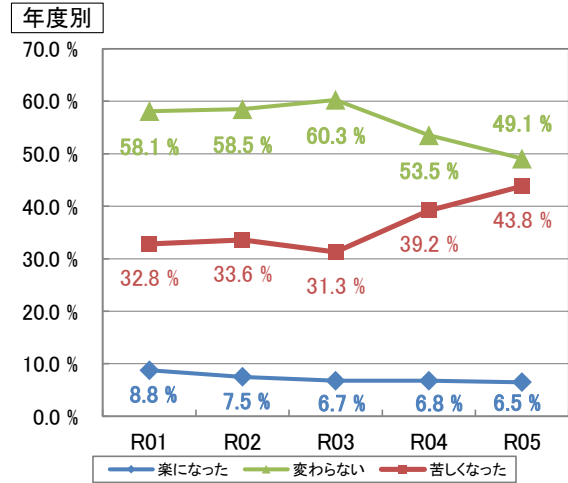
■奈良での就労別に見ると、「満足」している人は、『奈良県外で働いている人』（64.9%）が『奈良県内で働いている人』（56.1%）と比べ多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感（問2）

- 「変わらない」と感じている人は 49.1%で、令和4年度から 4.4ポイント減少しています。「楽になった」（「とても楽になった」+「少し楽になった」）と感じている人（6.5%）は横ばい、また、「苦しくなった」（「少し苦しくなった」+「とても苦しくなった」）と感じている人（43.8%）は 4.7ポイント増加しています。
- ライフステージ別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『育児期』（54.8%）が最も多く、次いで『教育期前期』（51.0%）となっています。
- 旧住民・新住民別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』（44.1%）と『奈良県に新しくきた人』（43.3%）でほとんど差はみられません。
- 奈良での就労別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県内で働いている人』（44.1%）が『奈良県外で働いている人』（42.2%）と比べ多くなっています。

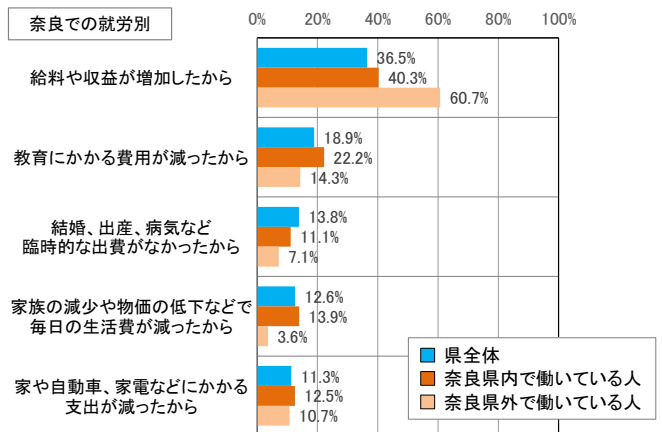
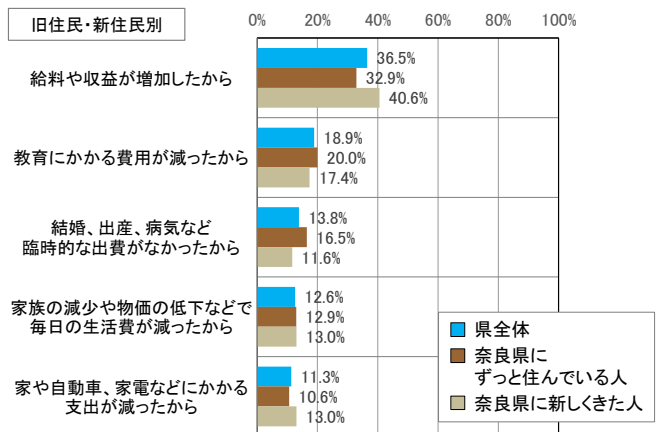
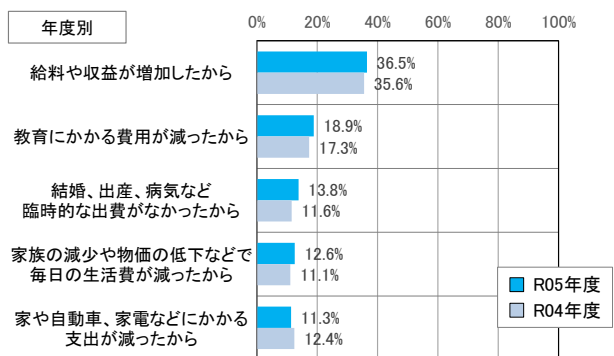
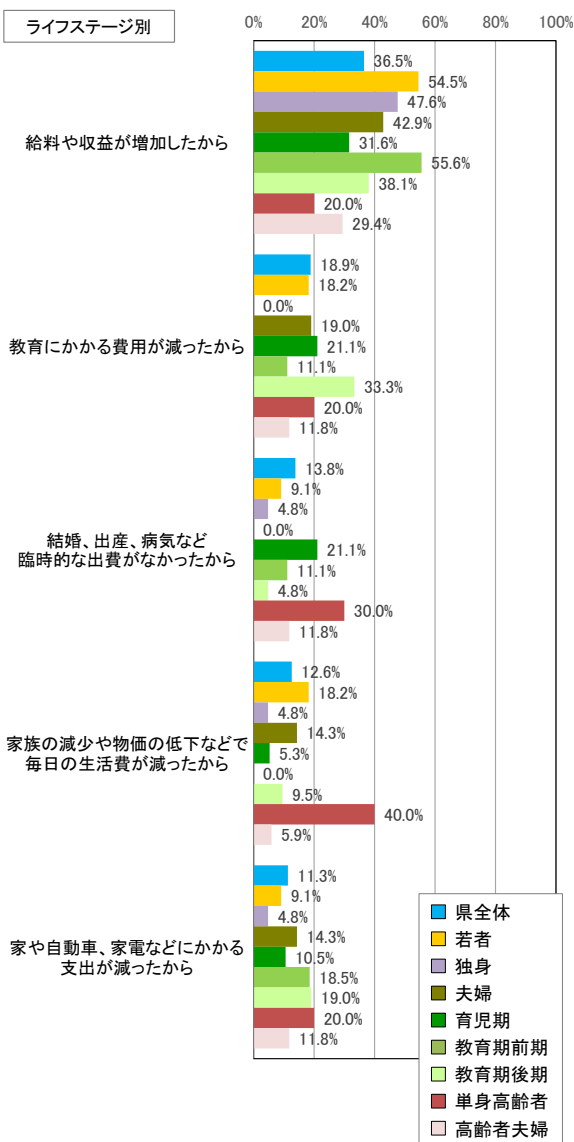


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

1-3 1年前と比較して暮らし向きの実感が変化した理由

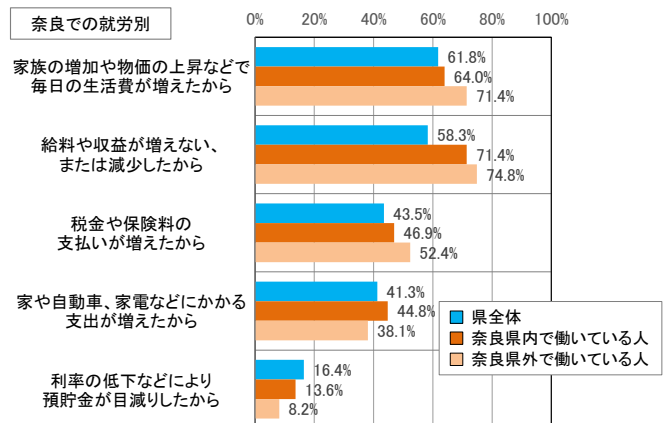
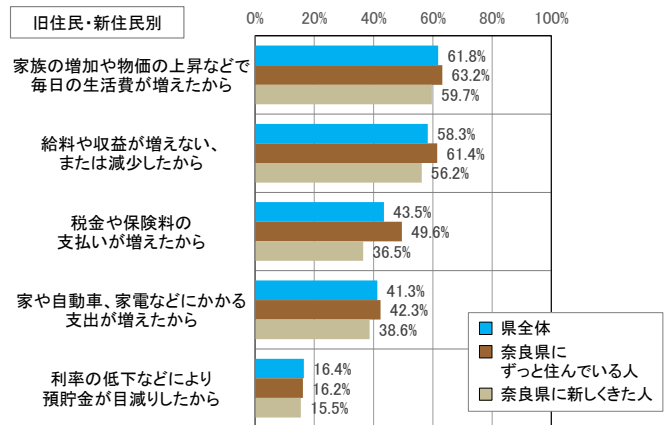
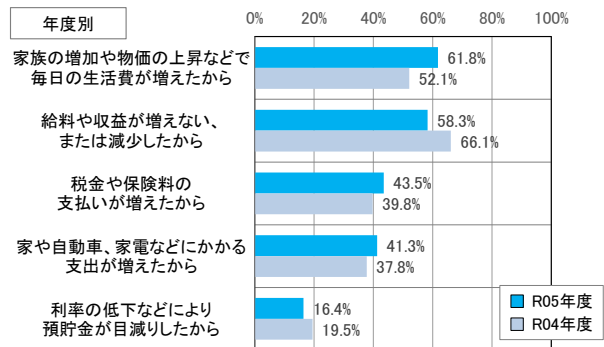
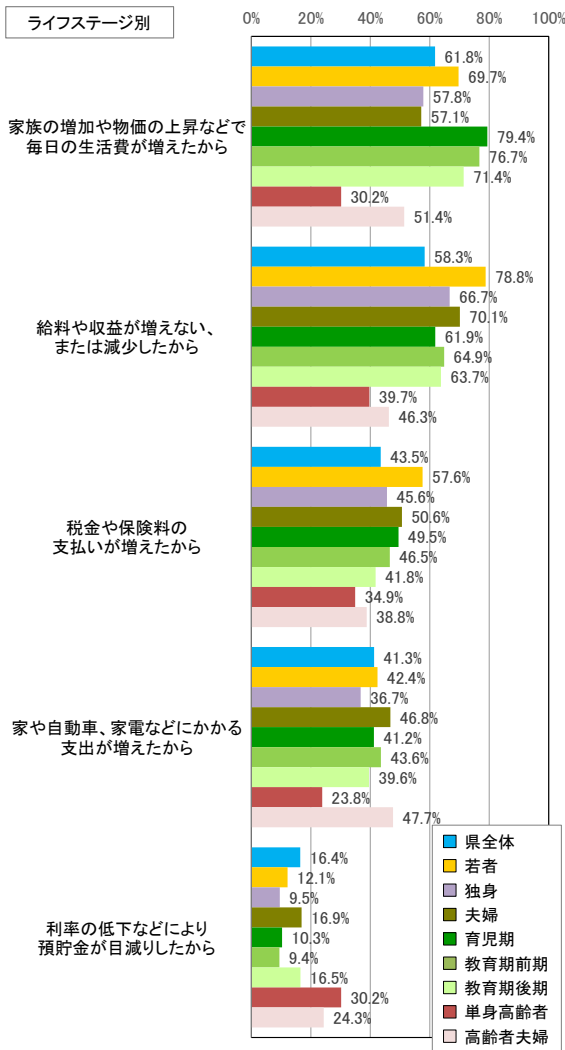
(1) 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由（問3 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

- 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増加したから」(36.5%)が最も多く、次いで「教育にかかる費用が減ったから」(18.9%)、「結婚、出産、病気など臨時的な出費がなかったから」(13.8%)、「家族の減少や物価の低下などで毎日の生活費が減ったから」(12.6%)、「家や自動車、家電などにかかる支出が減ったから」(11.3%)が多くなっています。
- 「給料や収益が増加したから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期前期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「教育にかかる費用が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「結婚、出産、病気など臨時的な出費がなかったから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の減少や物価の低下などで毎日の生活費が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』と『奈良県に新しくきた人』が同程度、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家や自動車、家電などにかかる支出が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



(2) 1年前と比較して暮らし向きの実感が「少し苦しくなった」または「とても苦しくなった」と答えた理由 (問4 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 1年前と比較して暮らし向きの実感が「少し苦しくなった」または「とても苦しくなった」と答えた理由を尋ねたところ、「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」(61.8%)が最も多く、次いで「給料や収益が増えない、または減少したから」(58.3%)、「税金や保険料の支払いが増えたから」(43.5%)、「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」(41.3%)、「利率の低下などにより預貯金が目減りしたから」(16.4%)が多くなっています。
- 「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「給料や収益が増えない、または減少したから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「税金や保険料の支払いが増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「利率の低下などにより預貯金が目減りしたから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』と『奈良県に新しくきた人』が同程度、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



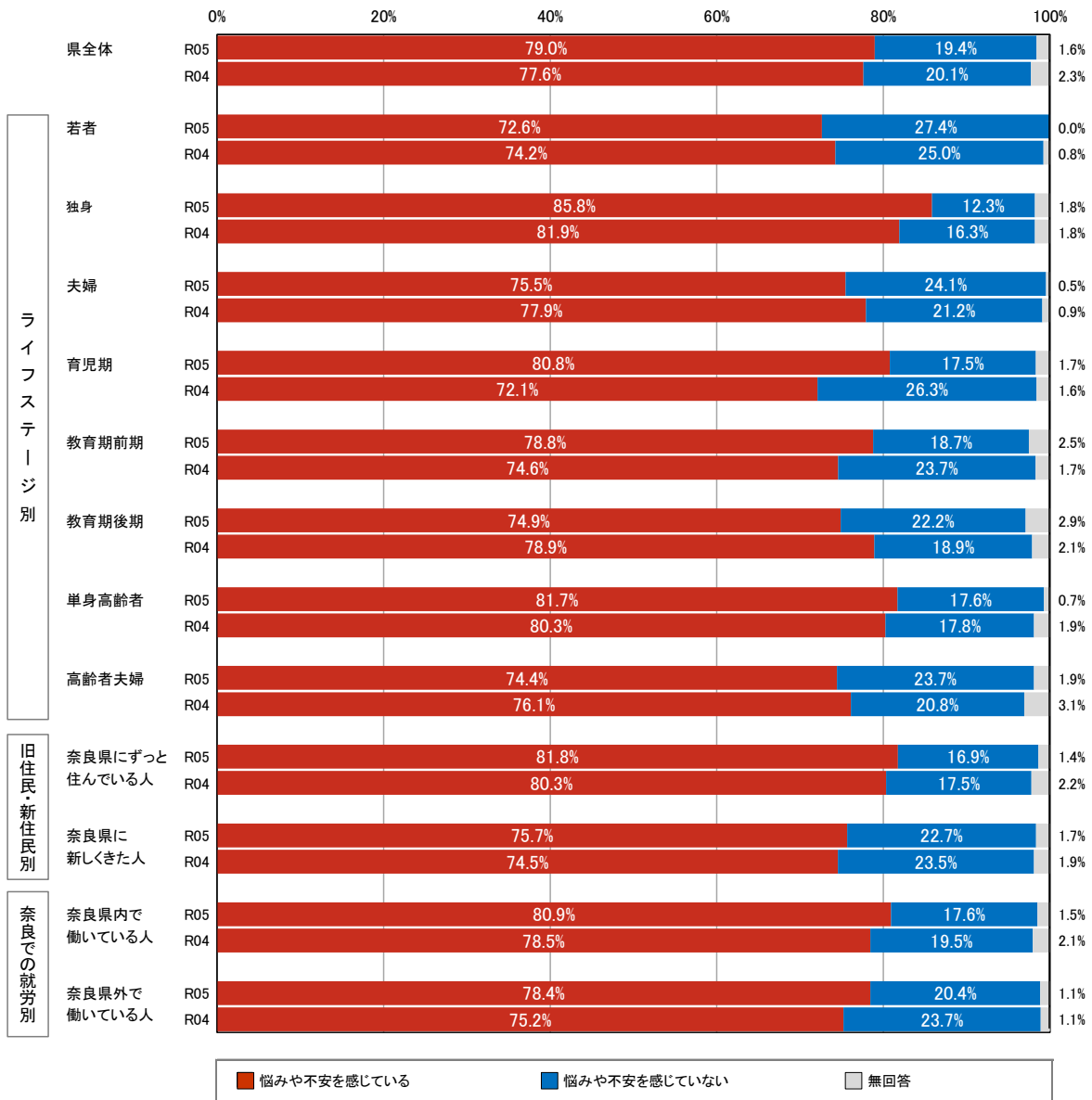
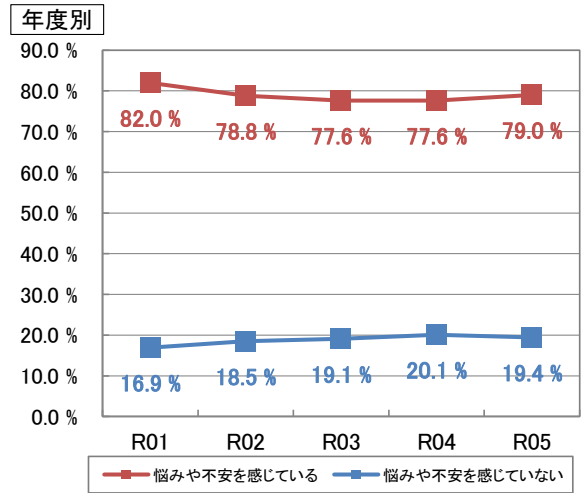
1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無 (問5)

■日頃の生活での悩みや不安の有無を尋ねたところ、「悩みや不安を感じている」と答えた人は79.0%で、令和4年度から1.4ポイント増加しています。一方、「悩みや不安を感じていない」と答えた人は19.4%で、令和4年度から横ばいとなっています。

■ライフステージ別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『独身』(85.8%)、『単身高齢者』(81.7%)、『育児期』(80.8%)で8割以上となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(81.8%)が『奈良県に新しくきた人』(75.7%)と比べ多くなっています。

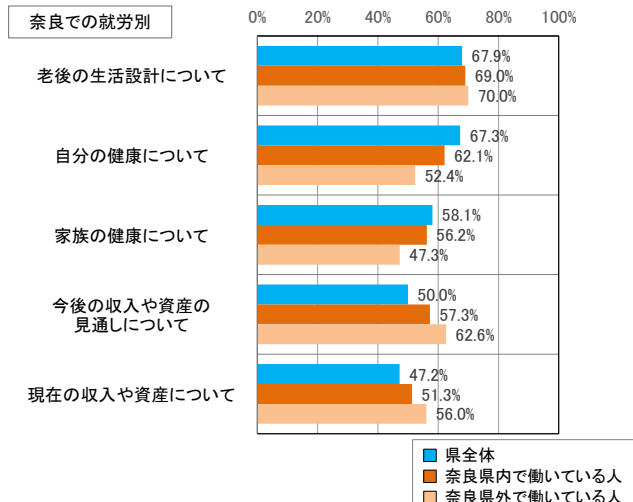
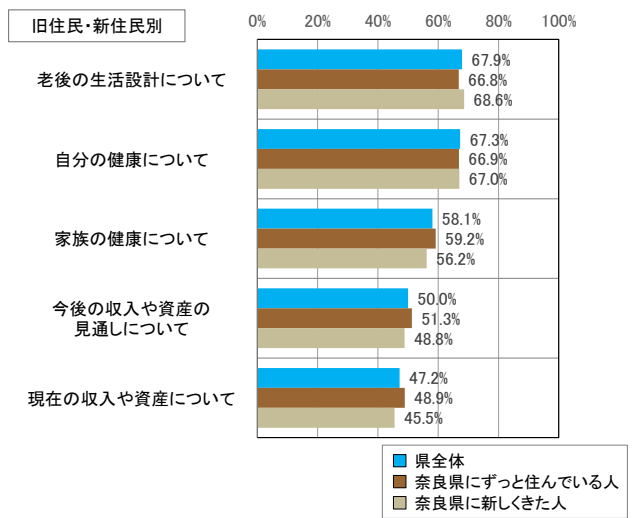
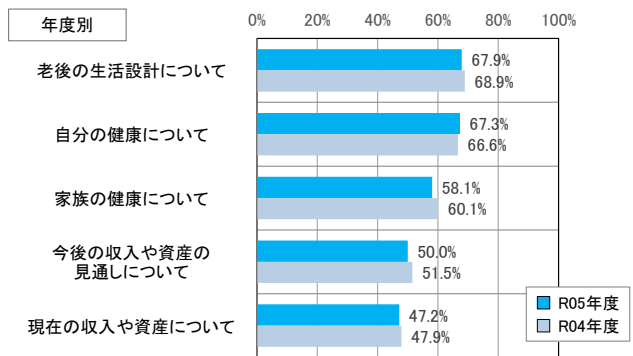
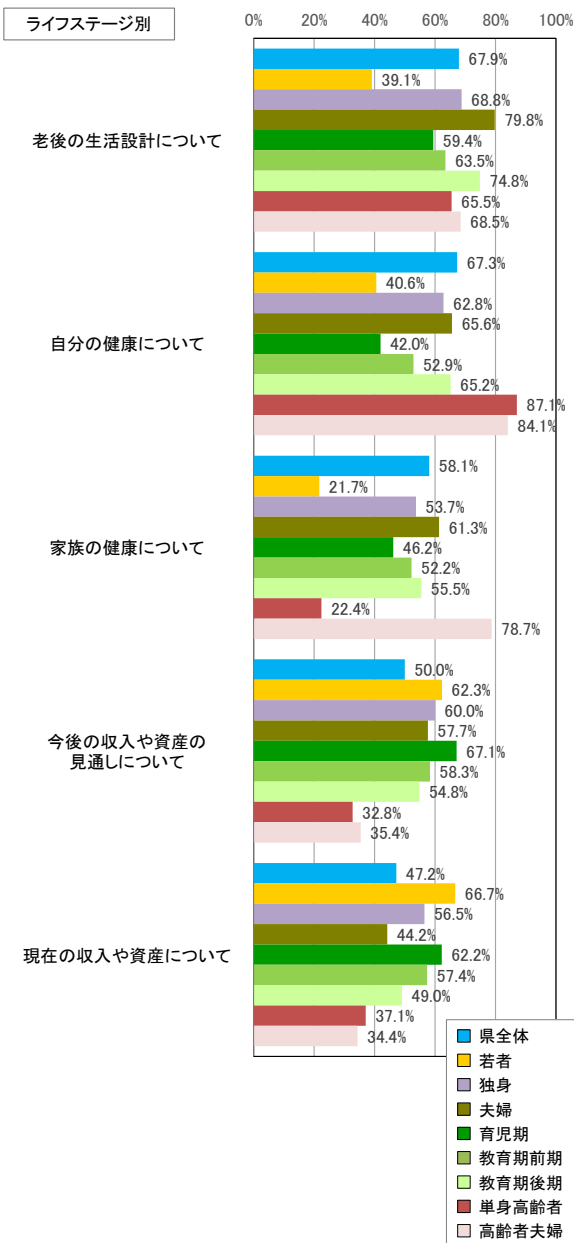
■奈良での就労別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県内で働いている人』(80.9%)が『奈良県外で働いている人』(78.4%)と比べ多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容 (問6 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 日頃の生活での悩みや不安の内容を尋ねたところ、「老後の生活設計について」(67.9%)が最も多く、次いで、「自分の健康について」(67.3%)、「家族の健康について」(58.1%)、「今後の収入や資産の見通しについて」(50.0%)、「現在の収入や資産について」(47.2%)が多くなっています。
- 「老後の生活設計について」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「自分の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』と『奈良県に新しくきた人』が同程度、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「今後の収入や資産の見通しについて」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「現在の収入や資産について」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



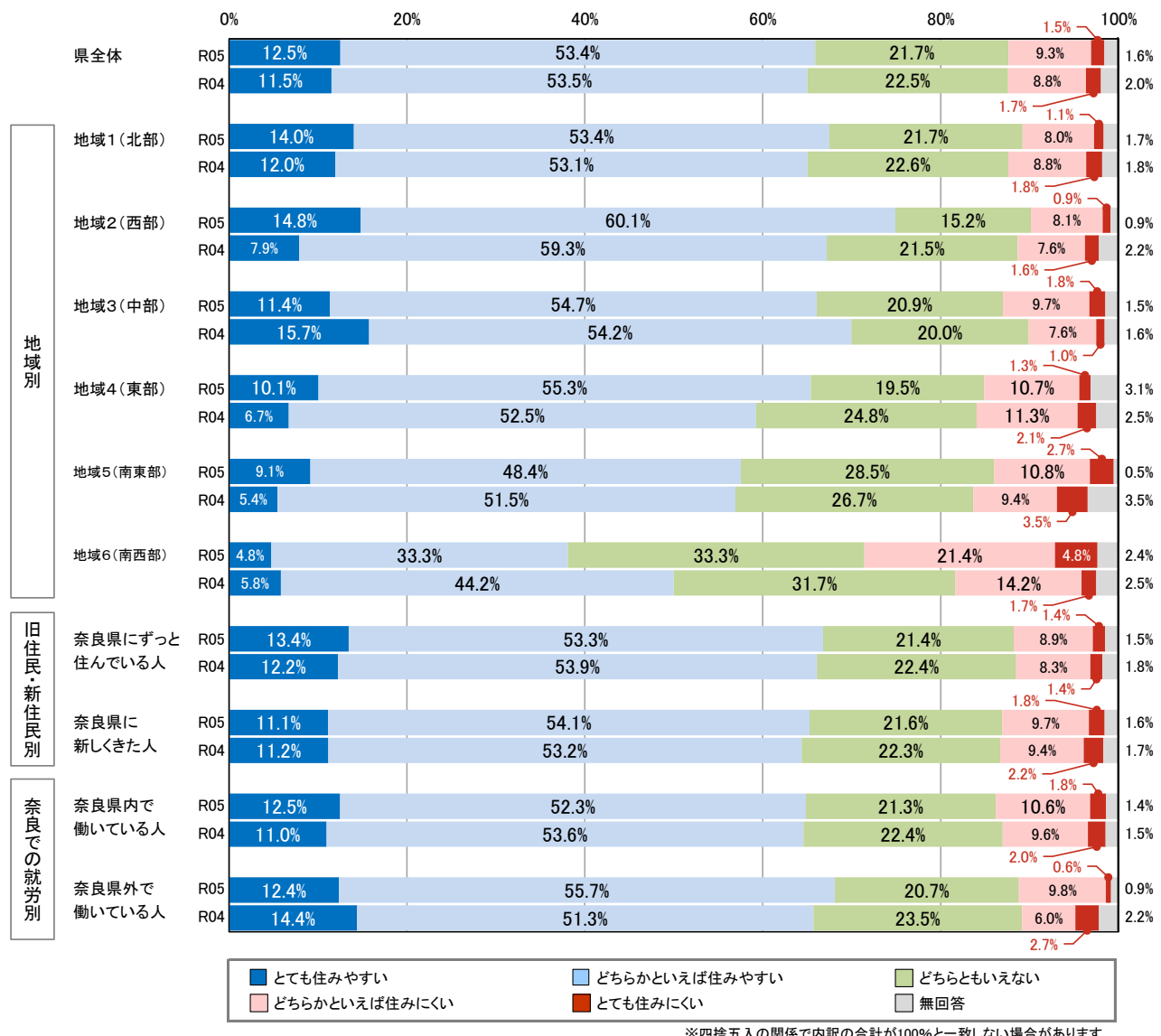
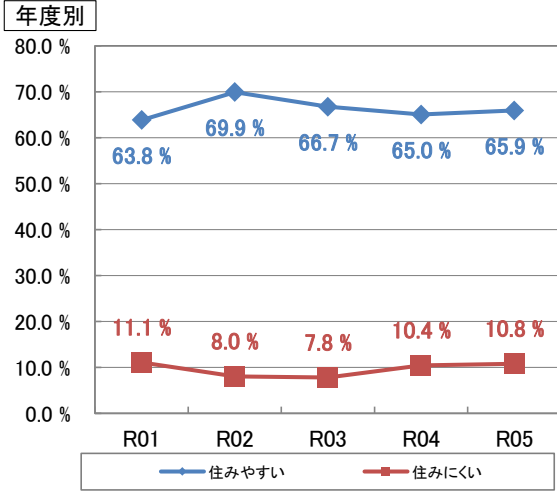
1-6 奈良県の住みやすさの評価 (問7)

■「住みやすい」「とても住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」と感じている人は 65.9%で、令和4年度から横ばいとなっています。「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」+「とても住みにくい」と感じている人は 10.8%で、こちらも令和4年度から横ばいとなっています。

■地域別でみると、「住みやすい」と感じている人は、『地域2(西部)』(74.9%)が最も多く、次いで『地域1(北部)』(67.5%)となっており、『地域6(南西部)』(38.1%)が最も少なくなっています。

■旧住民・新住民別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(66.8%)が『奈良県に新しくきた人』(65.3%)と比べ多くなっています。

■奈良での就労別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県外で働いている人』(68.1%)が『奈良県内で働いている人』(64.8%)と比べ多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

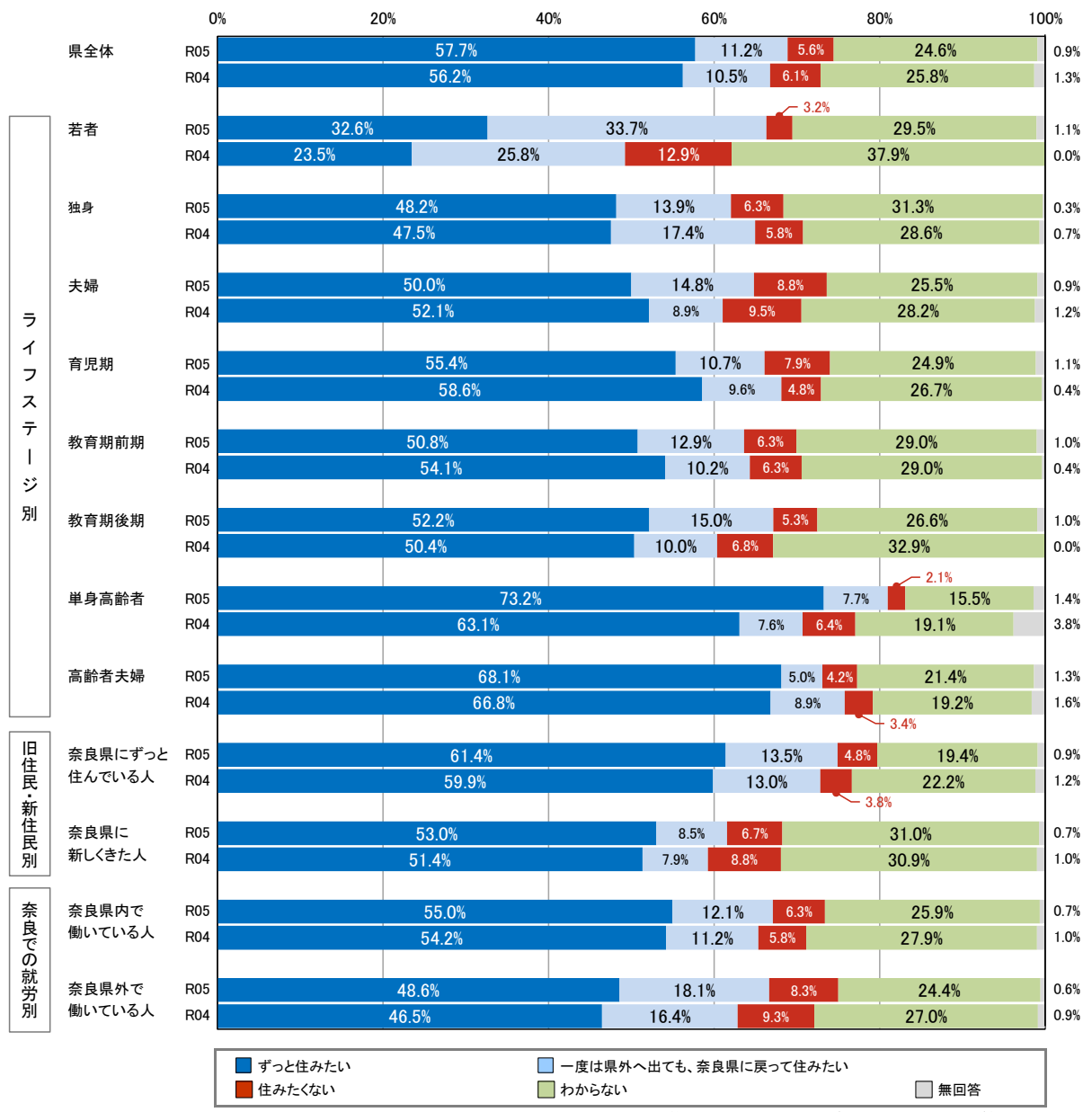
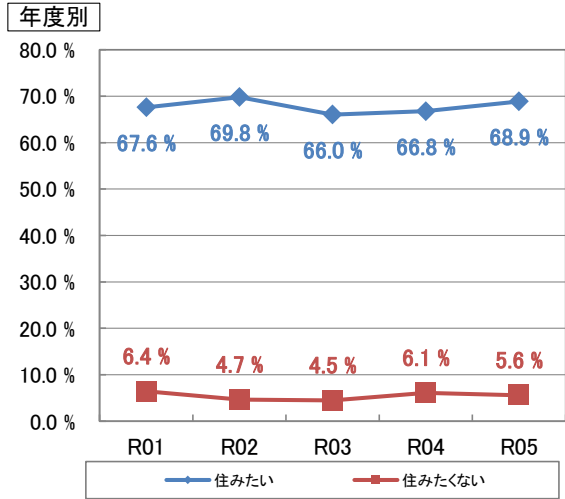
1-7 将来の奈良県での定住意向 (問8)

■奈良県に「住みたい」(「ずっと住みたい」+「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人は 68.9%で、令和4年度と比較すると、2.1ポイント増加しています。

■ライフステージ別に見ると、奈良県に「ずっと住みたい」と考えている人が最も多いのは『単身高齢者』(73.2%)、最も少ないのは『若者』(32.6%)となっています。一方、「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人が最も多いのは『若者』(33.7%)となっています。

■旧住民・新住民別に見ると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(74.9%)が『奈良県に新しくきた人』(61.6%)と比べ多くなっています。

■奈良での就労別に見ると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県内で働いている人』(67.1%)と『奈良県外で働いている人』(66.7%)で同程度となっています。

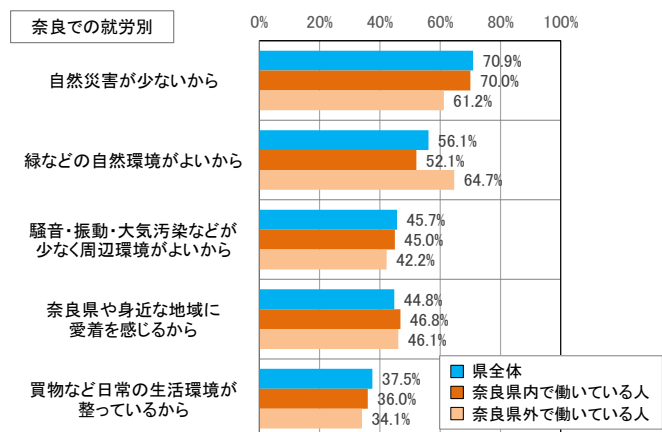
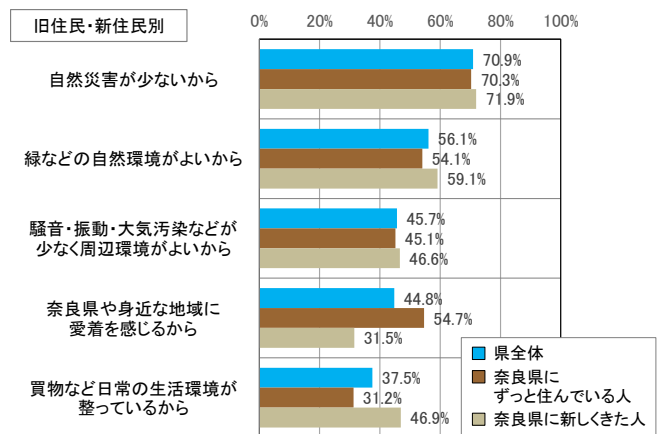
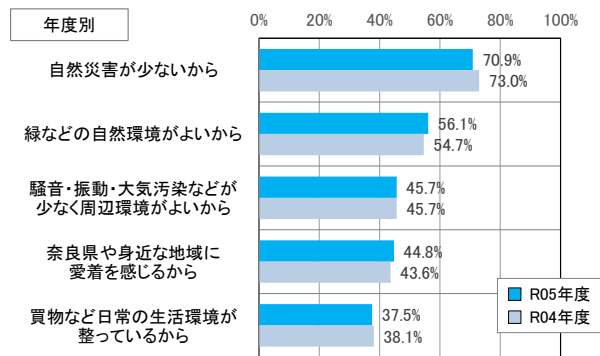
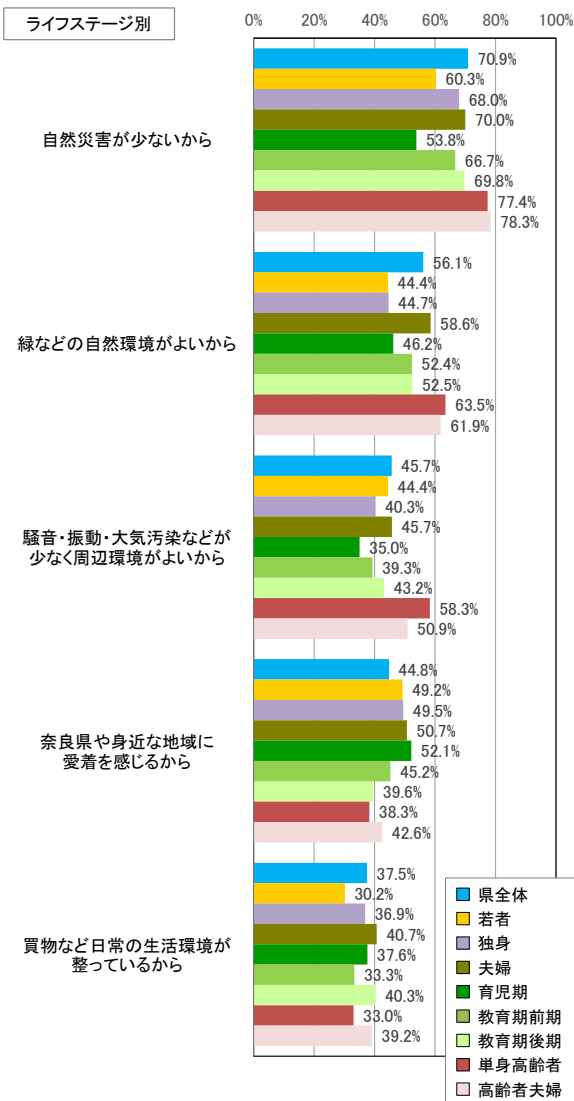


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

1-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由

(1) 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由（問9 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

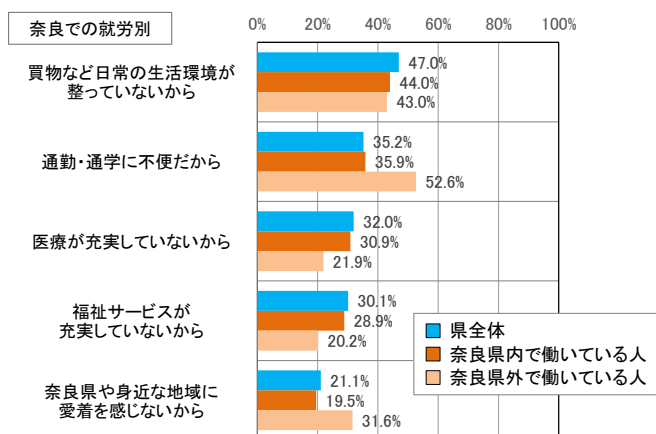
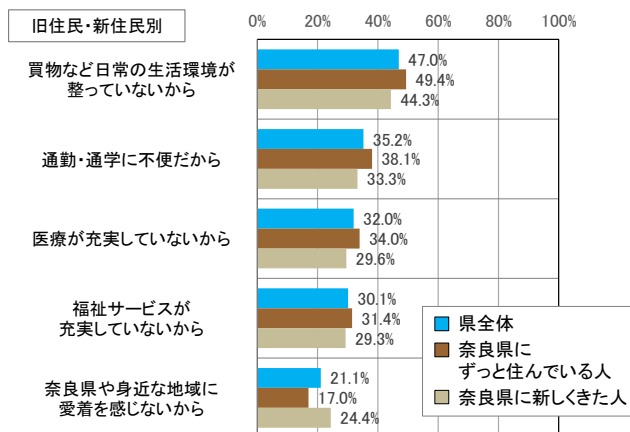
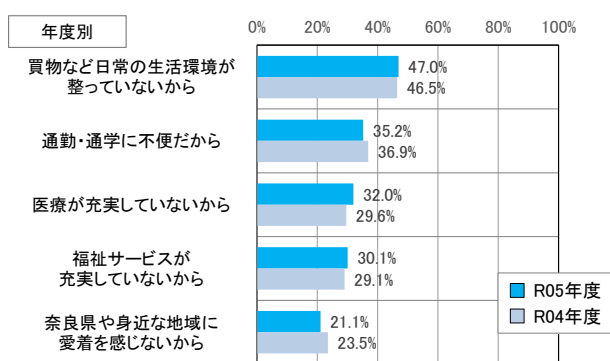
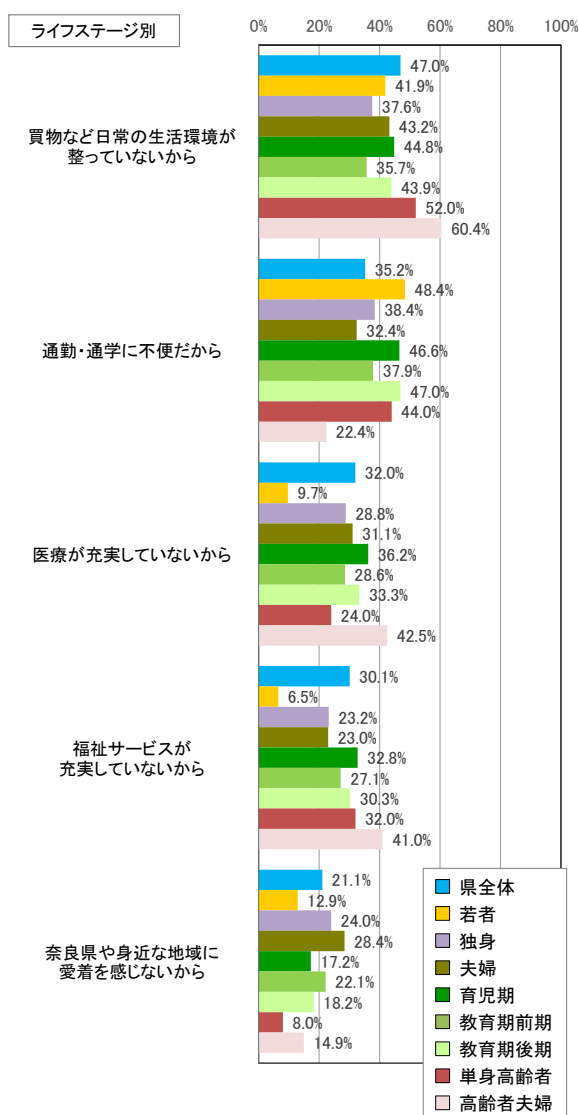
- 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由を尋ねたところ、「自然災害が少ないから」(70.9%)が最も多く、次いで「緑などの自然環境がよいから」(56.1%)、「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」(45.7%)、「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」(44.8%)、「買物など日常の生活環境が整っているから」(37.5%)が多くなっています。
- 「自然災害が少ないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「緑などの自然環境がよいから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多く、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』と『奈良県外で働いている人』が同程度となっています。
- 「買物など日常の生活環境が整っているから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



(2) 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由

(問10 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

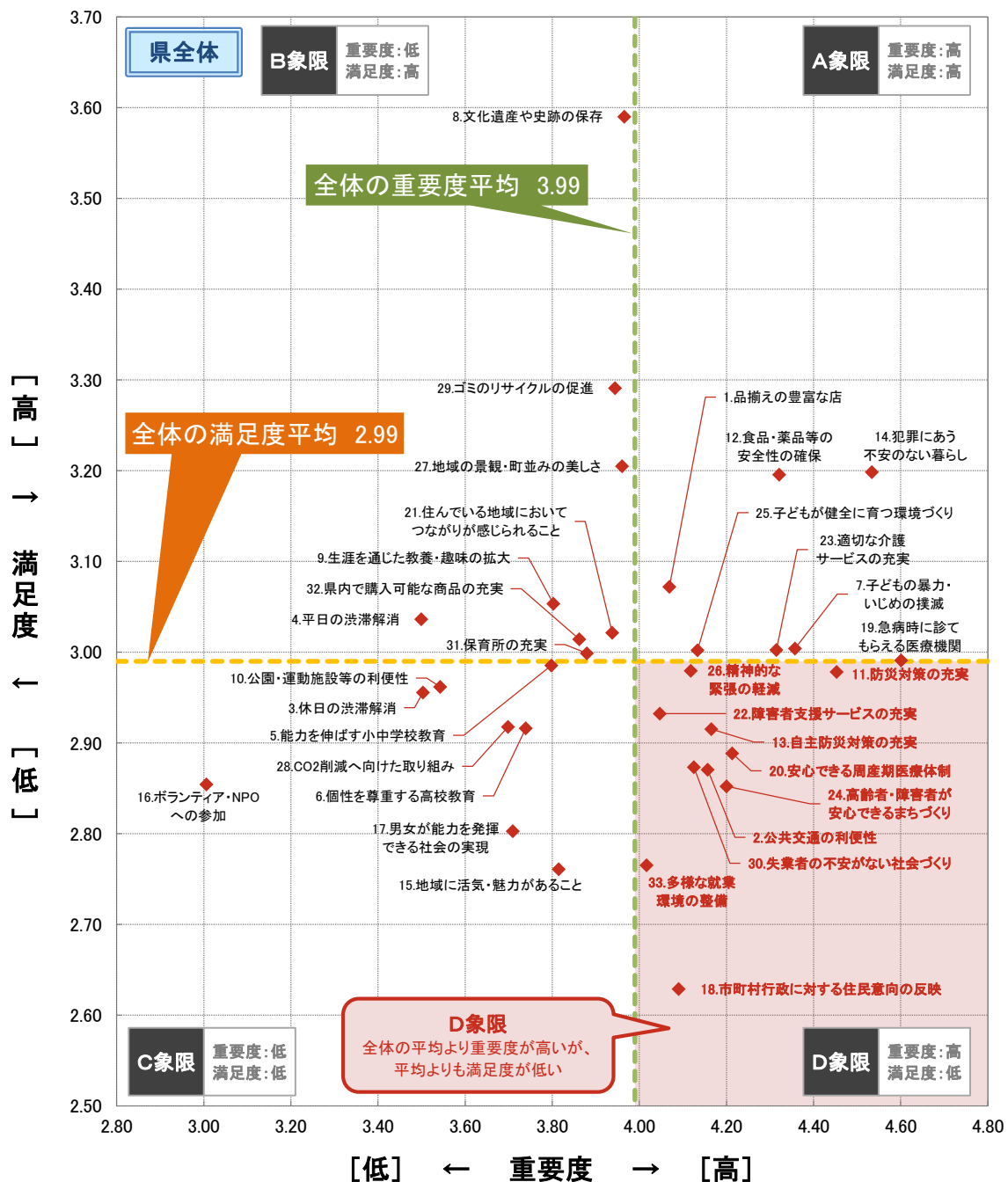
- 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由を尋ねたところ、「買物など日常生活環境が整っていないから」(47.0%)が最も多く、次いで「通勤・通学に不便だから」(35.2%)、「医療が充実していないから」(32.0%)、「福祉サービスが充実していないから」(30.1%)、「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」(21.1%)が多くなっています。
- 「買物など日常生活環境が整っていないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「通勤・通学に不便だから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「医療が充実していないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「福祉サービスが充実していないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



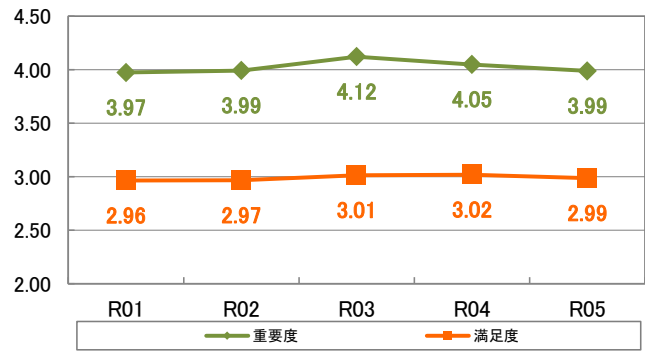
2. 県民の生活に関する重要度・満足度について(問11 5段階ポイント評価)

(1) 県全体

- 身近な生活に関する 33 項目それぞれの重要度と満足度を5点(高い)～1点(低い)の5段階(加重平均)で評価し、重要度と満足度の関係を整理しました。また、重要度と満足度の関係から課題・ニーズの大きさの指標となる「ニーズ得点」を算出しました。(次ページ参照) ニーズ得点は、重要度が高く、満足度が低い項目ほど高くなります。(「ニーズ得点＝＜重要度(加重平均)＞×＜6－満足度(加重平均)＞」により算出。)
- 県全体では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「15. 地域に活気・魅力があること」となっています。



■ 県民の身近な生活に関する 33 項目の重要度と満足度の平均値の推移をみると、重要度の平均値は、令和3年度以降、減少傾向となっています。また、満足度の平均値は、ここ5年間、ほぼ横ばいとなっています。



【身近な生活に関する 33 項目の重要度・満足度・ニーズ得点（5年間の比較）】

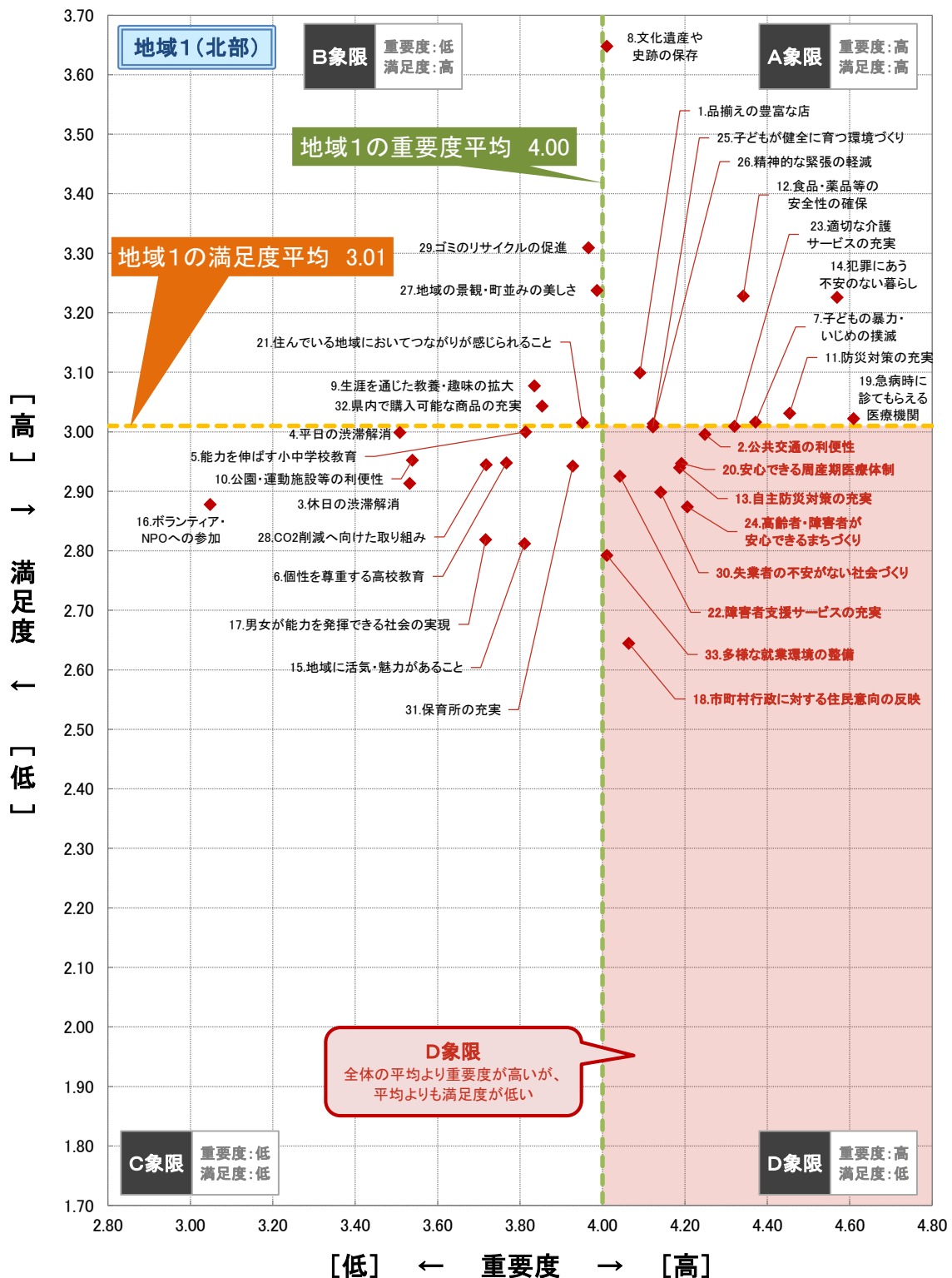
項目番号	項目	重要度					満足度					ニーズ得点					象限				
		R05	R04	R03	R02	R01	R05	R04	R03	R02	R01	R05	R04	R03	R02	R01	R05	R04	R03	R02	R01
1	品揃えの豊富な店が近くにあること	4.07	4.10	4.14	3.96	3.98	3.07	3.08	3.10	3.04	3.03	11.91	11.98	11.99	11.73	11.84	A	A	A	B	A
2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	4.16	4.16	4.13	4.02	4.19	2.87	2.84	2.93	2.81	2.79	13.01	13.13	12.68	12.83	13.45	D	D	D	D	D
3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.50	3.65	3.65	3.45	3.35	2.96	2.90	3.00	2.99	3.01	10.67	11.32	10.96	10.37	10.02	C	C	C	B	B
4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.50	3.68	3.65	3.47	3.39	3.04	3.01	3.06	3.04	3.08	10.37	10.99	10.71	10.29	9.92	B	C	B	B	B
5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	3.80	3.99	4.05	3.81	3.81	2.99	3.04	3.02	2.95	2.95	11.45	11.80	12.10	11.62	11.63	C	B	B	C	C
6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	3.74	3.91	3.95	3.75	3.76	2.92	2.98	2.96	2.92	2.91	11.53	11.80	11.99	11.57	11.61	C	C	C	C	C
7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	4.36	4.42	4.54	4.36	4.40	3.00	3.02	3.01	3.00	3.01	13.05	13.18	13.58	13.08	13.19	A	A	D	A	A
8	文化遺産や史跡が大事にされること	3.97	4.07	4.12	3.99	3.96	3.59	3.55	3.57	3.51	3.57	9.56	9.97	10.00	9.92	9.60	B	A	A	B	B
9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	3.80	3.90	4.01	3.81	3.78	3.05	3.08	3.08	3.02	3.00	11.21	11.40	11.72	11.36	11.34	B	B	B	B	B
10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	3.54	3.71	3.79	3.60	3.51	2.96	3.00	2.99	2.94	2.90	10.76	11.14	11.42	11.00	10.89	C	C	C	C	C
11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	4.45	4.44	4.56	4.50	4.44	2.98	3.01	2.99	2.90	2.89	13.46	13.30	13.73	13.92	13.81	D	D	D	D	D
12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	4.32	4.32	4.49	4.37	4.28	3.20	3.20	3.27	3.16	3.21	12.12	12.10	12.27	12.39	11.94	A	A	A	A	A
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていること	4.17	4.20	4.28	4.22	4.19	2.92	2.93	2.94	2.87	2.84	12.85	12.90	13.09	13.22	13.25	D	D	D	D	D
14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	4.53	4.49	4.59	4.50	4.51	3.20	3.26	3.26	3.22	3.22	12.70	12.31	12.59	12.50	12.56	A	A	A	A	A
15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	3.81	3.87	3.89	3.79	3.78	2.76	2.81	2.76	2.73	2.72	12.36	12.35	12.58	12.41	12.41	C	C	C	C	C
16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	3.01	3.23	3.18	3.11	3.03	2.85	2.88	2.88	2.84	2.84	9.46	10.06	9.92	9.82	9.58	C	C	C	C	C
17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	3.71	3.81	3.91	3.73	3.69	2.80	2.85	2.82	2.81	2.78	11.86	11.99	12.44	11.93	11.86	C	C	C	C	C
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	4.09	4.07	4.16	4.04	4.02	2.63	2.70	2.60	2.57	2.56	13.79	13.42	14.15	13.85	13.83	D	D	D	D	D
19	急病時に診てもらえる医療機関があること	4.60	4.58	4.66	4.60	4.58	2.99	3.08	3.03	2.99	3.00	13.84	13.37	13.84	13.83	13.73	A	A	A	A	A
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	4.21	4.28	4.35	4.21	4.23	2.89	2.95	2.92	2.88	2.85	13.11	13.06	13.39	13.16	13.32	D	D	D	D	D
21	住んでいる地域において、互いに見守り、助け合うなどつながりが感じられること	3.94	3.97	4.06	3.93	3.98	3.02	3.07	3.08	3.02	3.05	11.73	11.61	11.83	11.72	11.74	B	B	B	B	A
22	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	4.05	4.04	4.18	4.04	4.02	2.93	2.99	2.96	2.92	2.92	12.42	12.16	12.69	12.47	12.40	D	C	D	D	D
23	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	4.31	4.32	4.40	4.30	4.32	3.00	3.08	3.06	3.02	2.98	12.93	12.61	12.94	12.83	13.06	A	A	A	A	A
24	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	4.20	4.20	4.27	4.18	4.17	2.85	2.90	2.89	2.83	2.77	13.22	13.00	13.27	13.22	13.47	D	D	D	D	D
25	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	4.13	4.18	4.29	4.17	4.15	3.00	3.09	3.09	3.05	3.03	12.39	12.13	12.50	12.30	12.35	A	A	A	A	A
26	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	4.12	4.10	4.20	4.11	4.05	2.98	3.01	2.96	2.98	2.97	12.44	12.25	12.76	12.41	12.25	D	D	D	A	A
27	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	3.96	3.99	4.03	3.95	3.91	3.21	3.23	3.24	3.21	3.21	11.07	11.05	11.11	11.01	10.94	B	B	B	B	B
28	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	3.70	3.82	3.88	3.83	3.77	2.92	2.94	2.92	2.89	2.87	11.40	11.69	11.96	11.92	11.79	C	C	C	C	C
29	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	3.94	3.99	4.06	3.98	3.97	3.29	3.26	3.26	3.20	3.23	10.69	10.96	11.13	11.14	11.01	B	B	B	B	A
30	失業の不安がなく働けること	4.13	4.19	4.31	4.20	4.17	2.87	2.90	2.89	2.83	2.83	12.90	12.97	13.39	13.29	13.19	D	D	D	D	D
31	保育所の数や定員を増やすことにより、待機児童を解消すること	3.88	3.95	4.05	3.87	3.88	3.00	3.07	3.04	3.00	3.01	11.64	11.55	11.96	11.62	11.58	B	B	B	B	B
32	県内で買いたいものが販売されていること	3.86	3.90	4.00	3.85	3.79	3.01	3.05	3.07	2.99	3.04	11.53	11.50	11.74	11.58	11.22	B	B	B	B	B
33	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	4.02	4.06	4.14	4.01	4.00	2.77	2.83	2.76	2.73	2.72	12.99	12.89	13.41	13.12	13.10	D	D	D	D	D

(注) 「重要度と満足度の関係」の各年度のA～Dの記号の対応については、前ページのA～D象限に対応している。網掛けした項目は満足度が当該年度の全項目の平均値を下回るもの(C象限・D象限)であり、濃い網掛けはそのうち重要度が平均値を上回るもの(D象限)、すなわち重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目である。

(2) 地域別

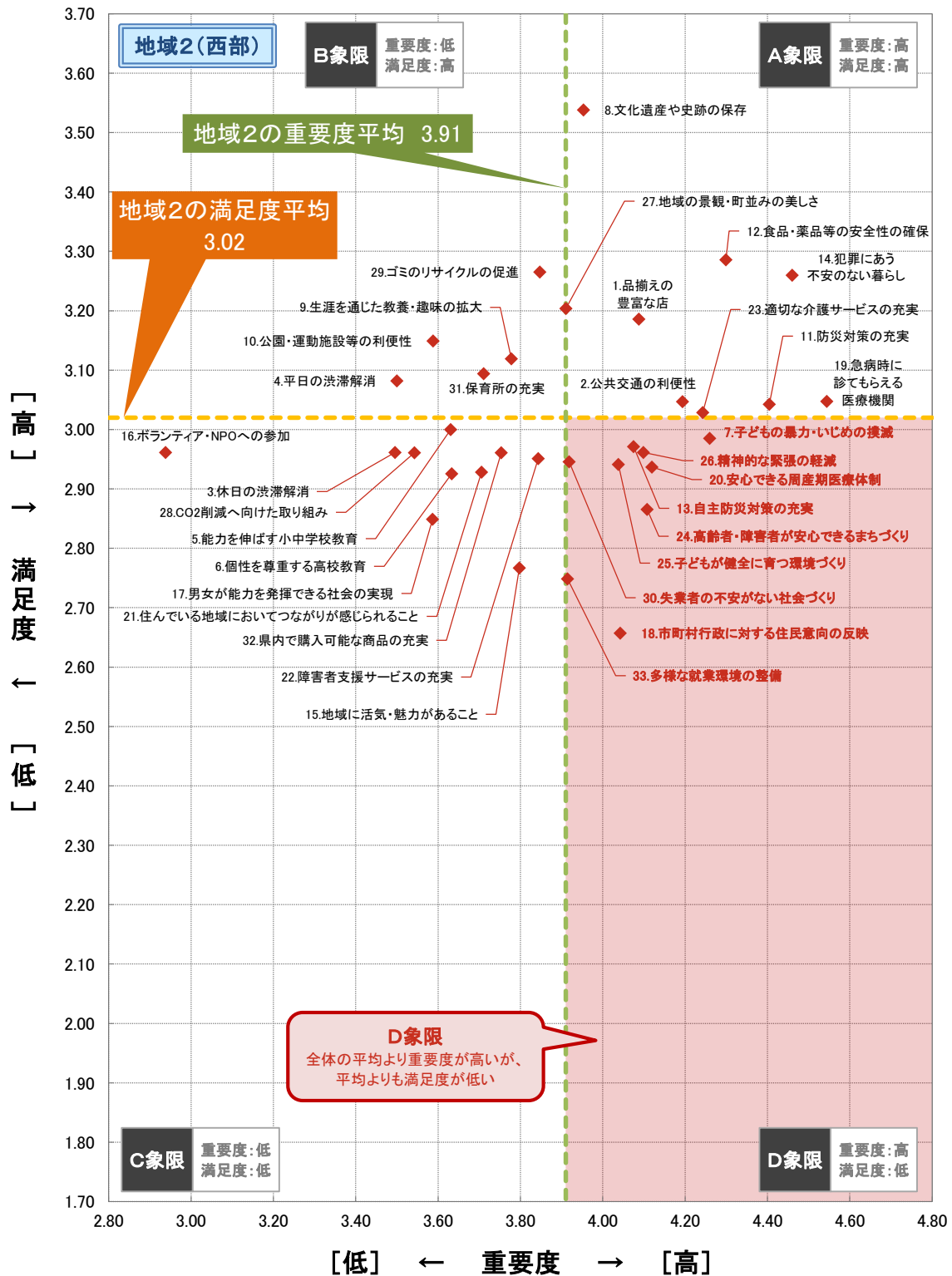
①地域1（北部）

- 『地域1（北部）』では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの推進」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



②地域2（西部）

- 『地域2（西部）』では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「12. 食品・薬品等の安全性の確保」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。

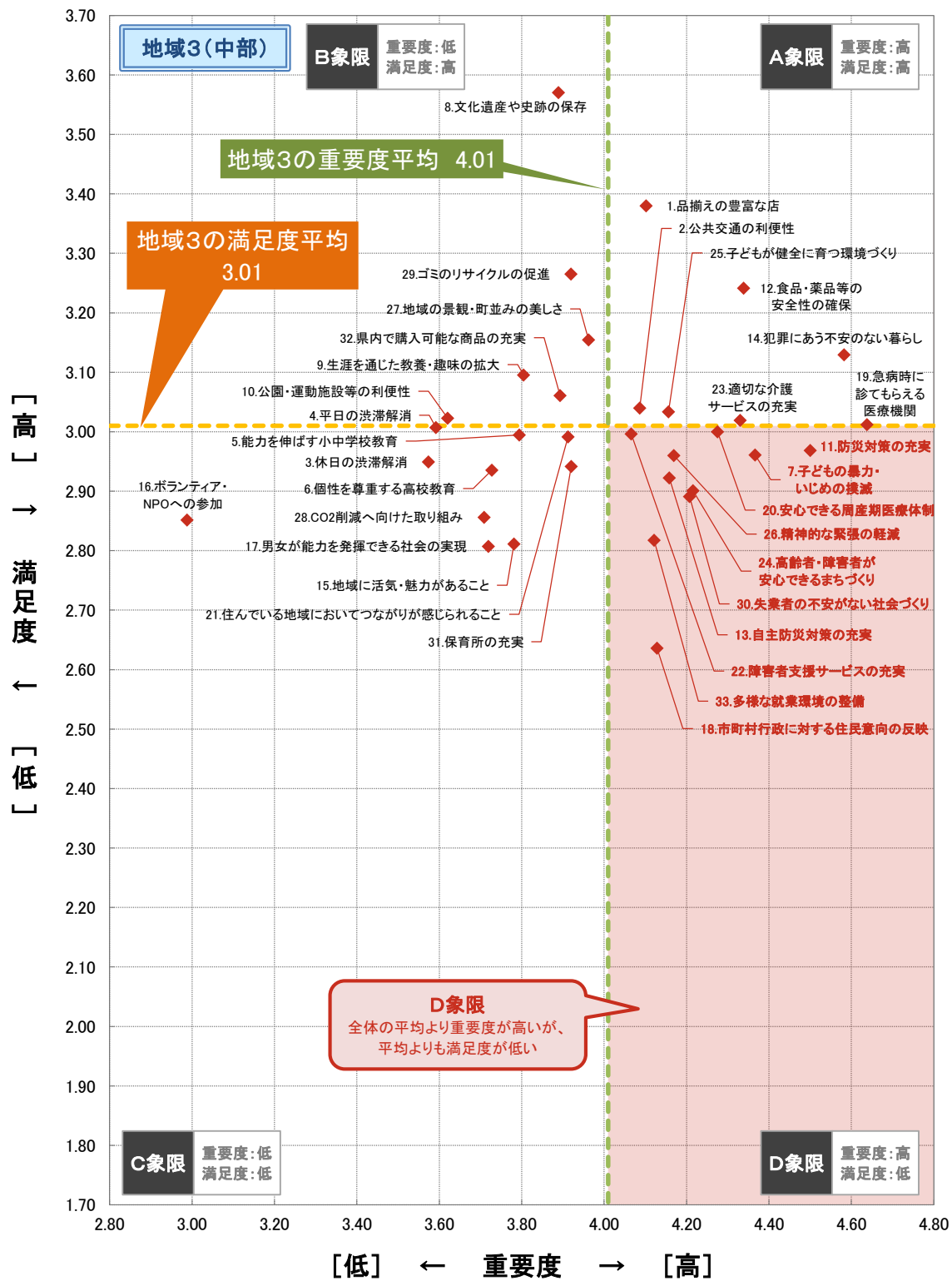


③地域3（中部）

■『地域3（中部）』では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。

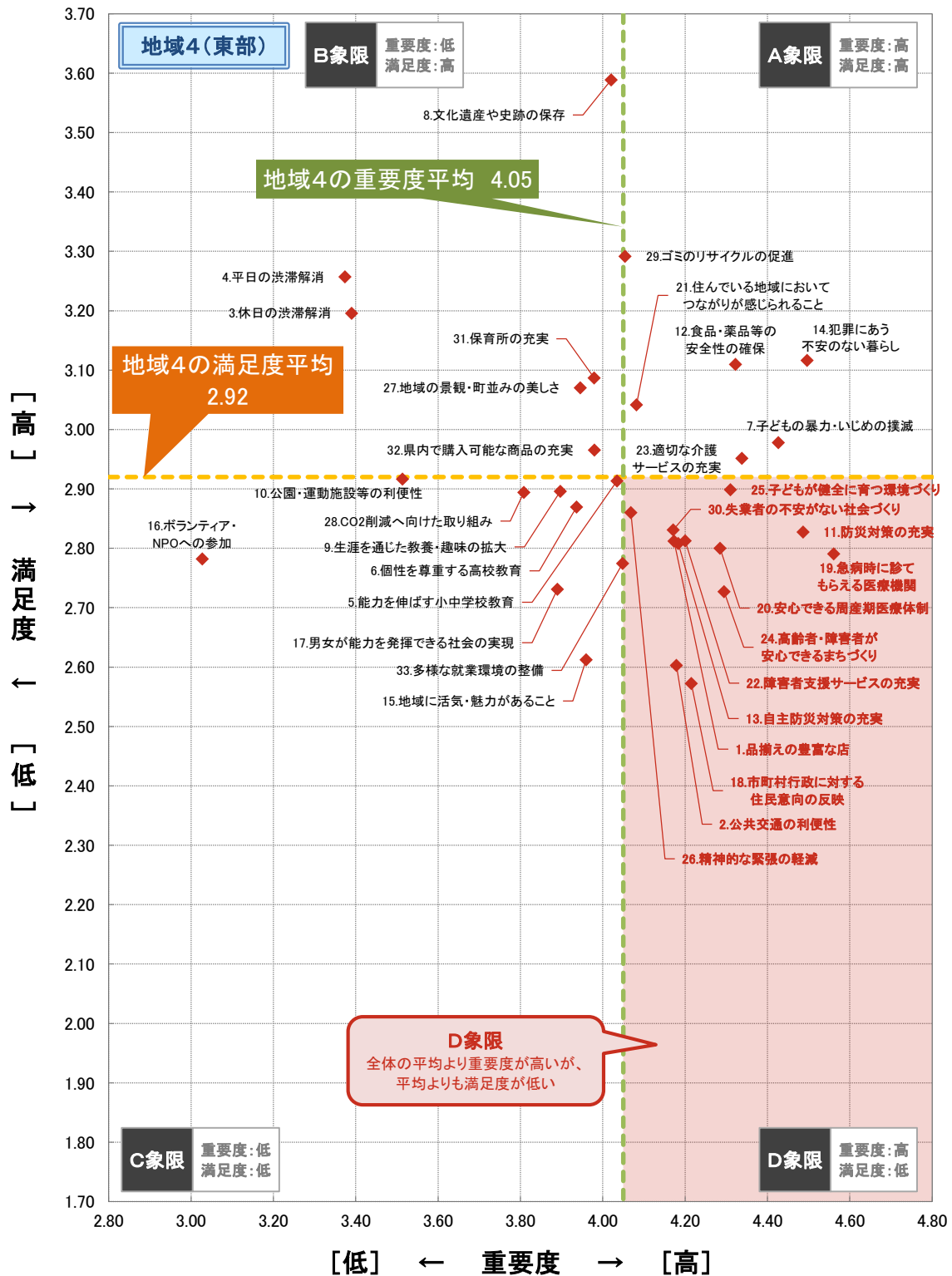
■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「17. 男女が能力を発揮できる社会の実現」となっています。



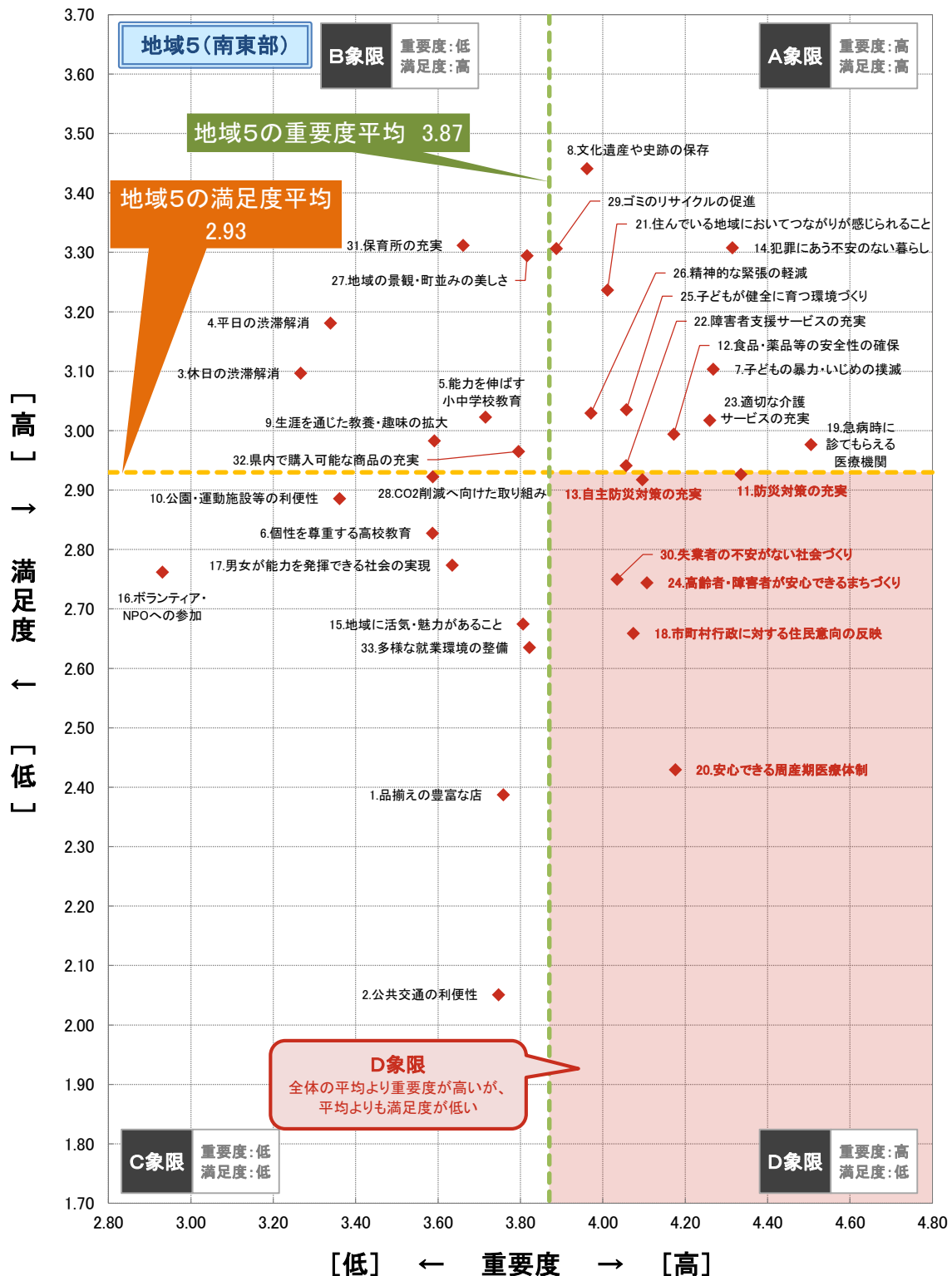
④地域4（東部）

- 『地域4（東部）』では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「2. 公共交通の利便性」となっています。



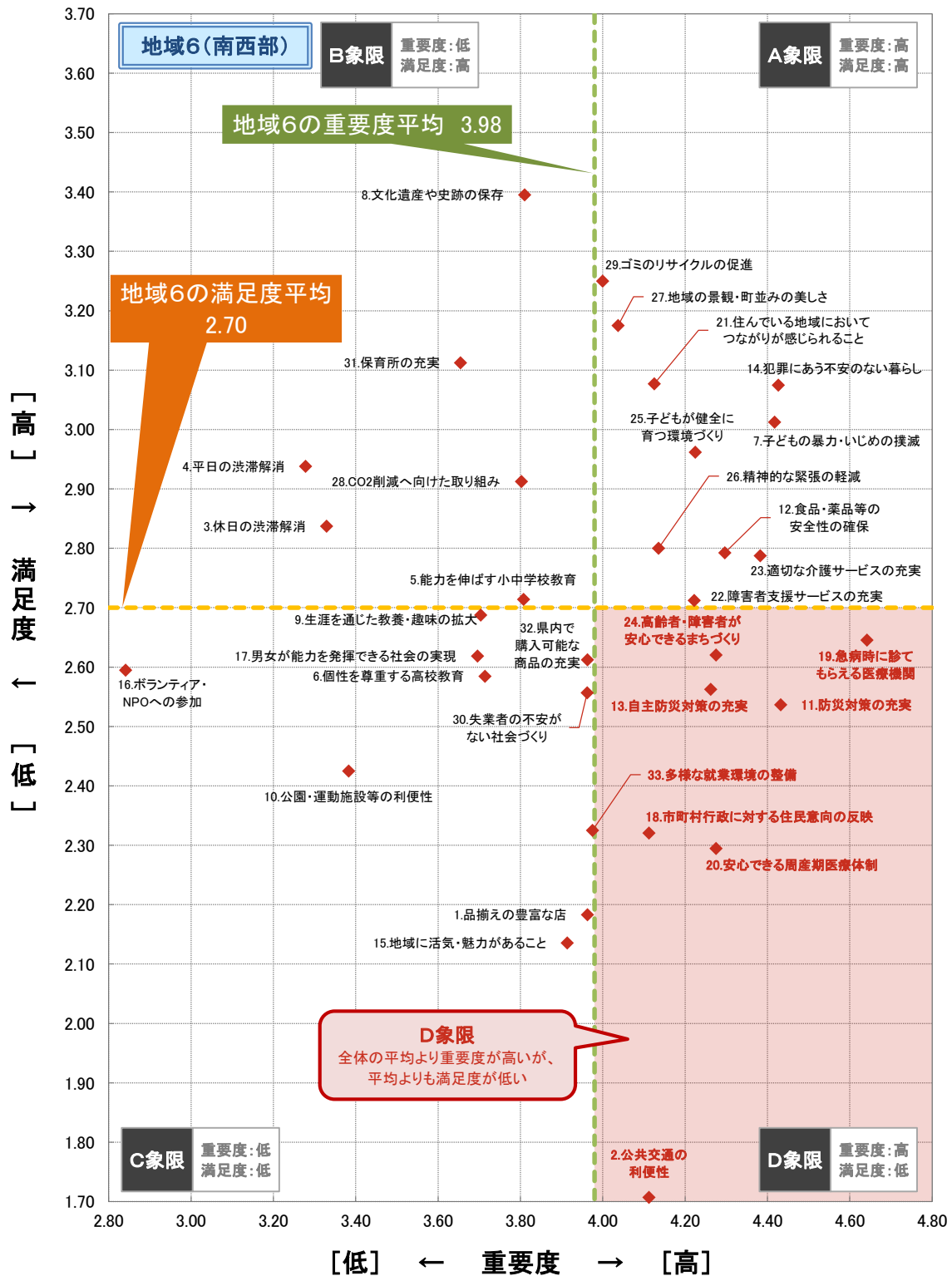
⑤地域5（南東部）

- 『地域5(南東部)』では、「20. 安心できる周産期医療体制」、「2. 公共交通の利便性」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「11. 防災対策の充実」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「31. 保育所の充実」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。



⑥地域6（南西部）

- 『地域6(南西部)』では、「2. 公共交通の利便性」、「20. 安心できる周産期医療体制」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「11. 防災対策の充実」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「15. 地域に活気・魅力があること」となっています。

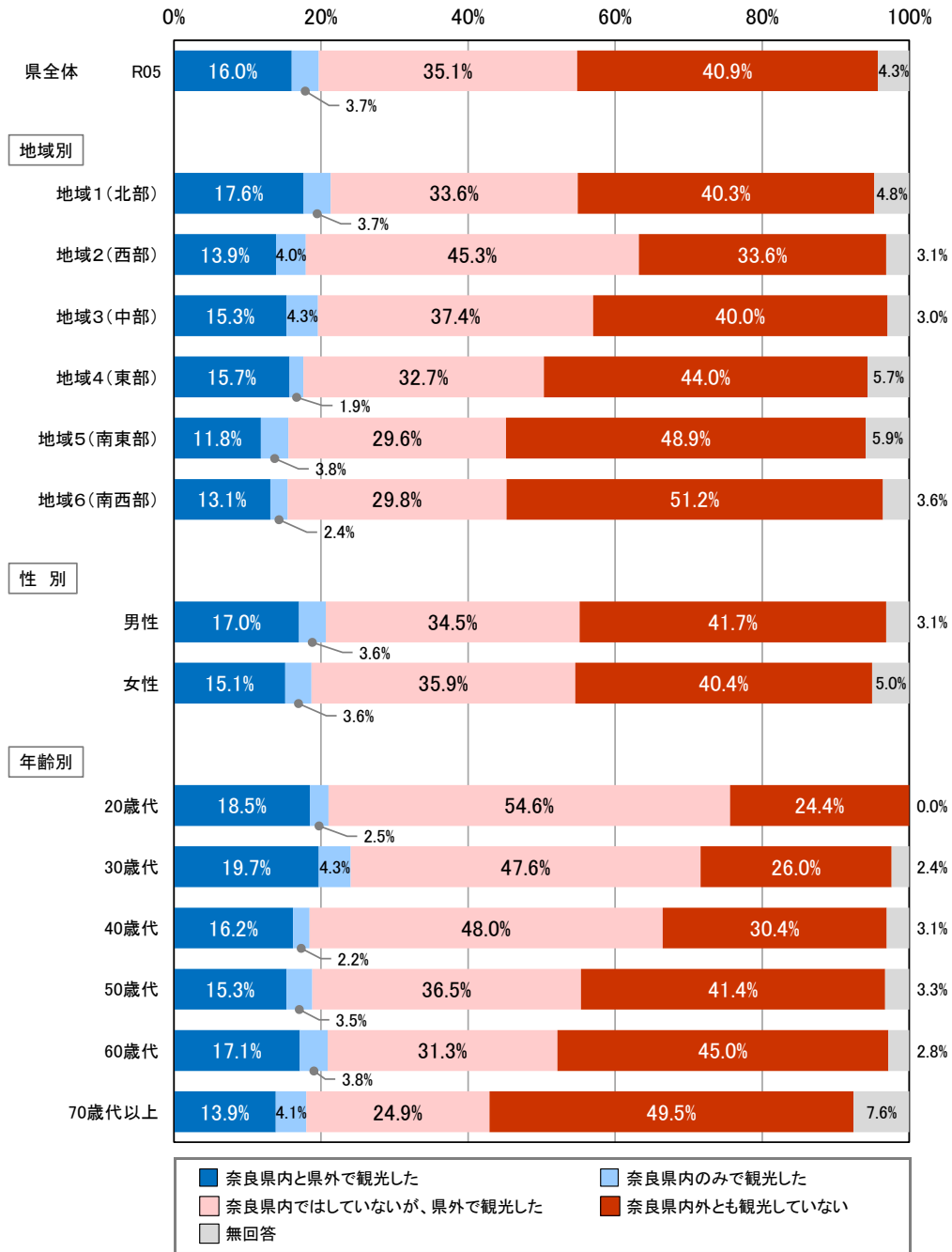


3～8. 県民の生活に関する意識やニーズについて

3. 観光【賑わう「都」をつくる】

(1) 宿泊を伴う奈良県内観光の有無（問12）

- 宿泊を伴う奈良県内観光の有無については、「奈良県内外とも観光していない」人が 40.9%で最も多く、「奈良県内ではしていないが、県外で観光した」人が 35.1%、「奈良県内と県外で観光した」人が 16.0%となっています。「奈良県内と県外で観光した」人と「奈良県内のみで観光した」人(3.7%)を合計した「奈良県内で観光した」人は 19.7%となっています。
- 地域別にみると、「奈良県内で観光した」人が最も多いのは『地域1(北部)』(21.3%)で、次いで『地域3(中部)』(19.6%)となっています。一方、『地域5(南東部)』(15.6%)や『地域6(南西部)』(15.5%)では少なくなっています。
- 「奈良県内で観光した」人の割合を性別にみると、『男性』(20.6%)の方が『女性』(18.7%)より 1.9ポイント多くなっています。
- 「奈良県内で観光した」人の割合を年齢別にみると、『30歳代』(24.0%)が最も多くなっています。

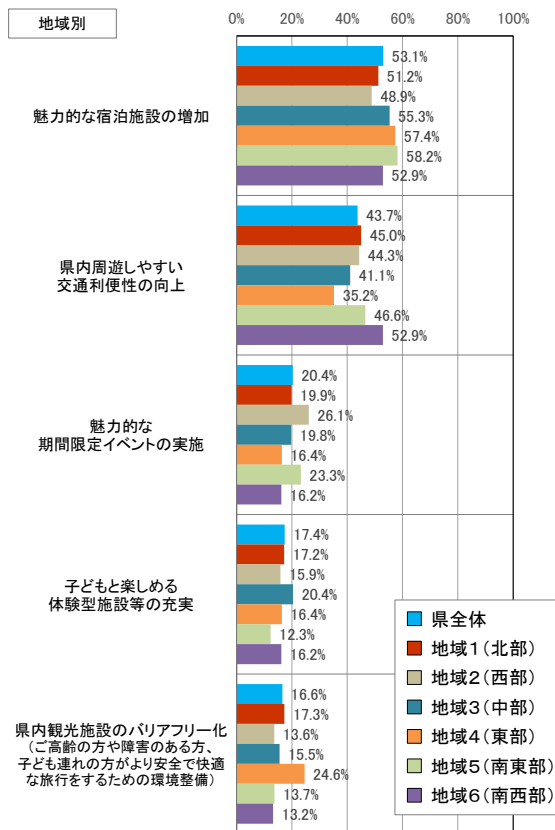
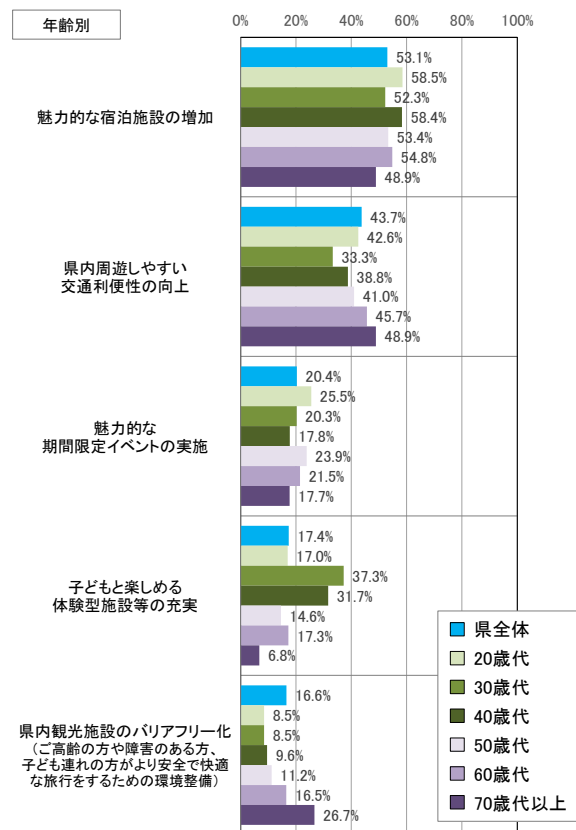
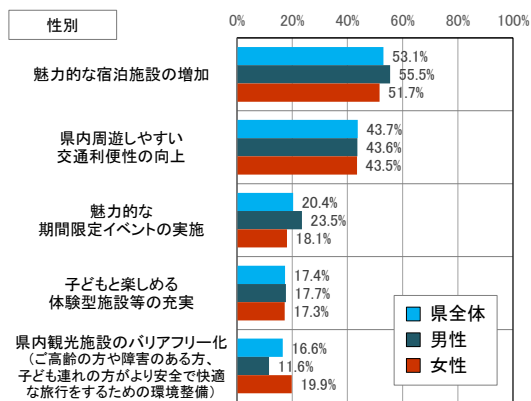


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(2) 宿泊を伴う奈良県内観光をする人を増やすために必要だと思う施策

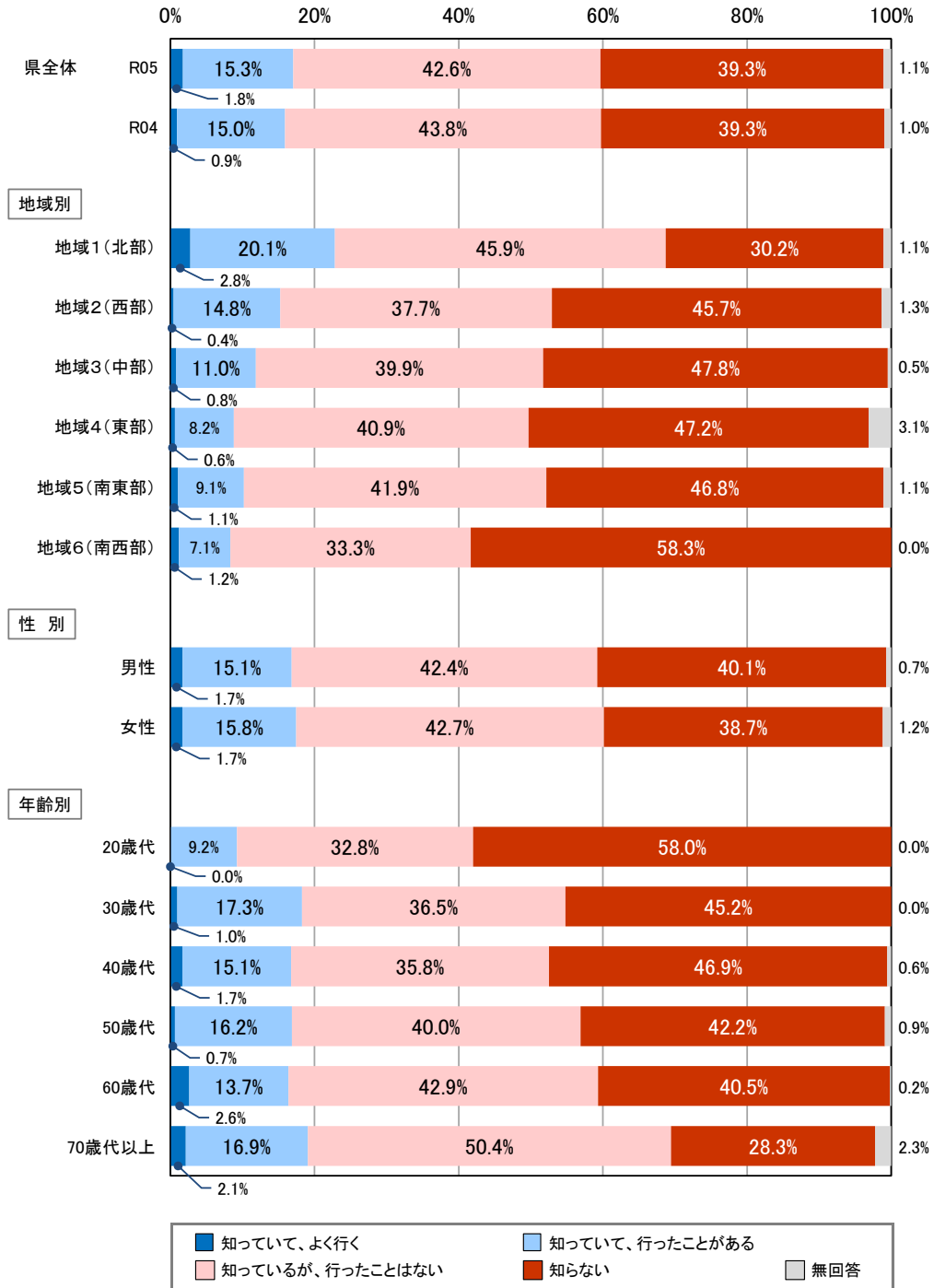
(問 14 2つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 宿泊を伴う奈良県内観光をする人を増やすために必要だと思う施策について尋ねたところ、「魅力的な宿泊施設の増加」(53.1%)が最も多く、次いで「県内周遊しやすい交通利便性の向上」(43.7%)、「魅力的な期間限定イベントの実施」(20.4%)、「子どもと楽しめる体験型施設等の充実」(17.4%)、「県内観光施設のバリアフリー化」(16.6%)となっています。
- 「魅力的な宿泊施設の増加」と答えた人については、性別では『男性』、地域別では『地域5(南東部)』、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「県内周遊しやすい交通利便性の向上」と答えた人については、性別では『男性』と『女性』が同程度となっており、地域別では『地域6(南西部)』、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「魅力的な期間限定イベントの実施」と答えた人については、性別では『男性』、地域別では『地域2(西部)』、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「子どもと楽しめる体験型施設等の充実」と答えた人については、性別では『男性』と『女性』が同程度となっており、地域別では『地域3(中部)』、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「県内観光施設のバリアフリー化」と答えた人については、性別では『女性』、地域別では『地域4(東部)』、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。



(3) 「平城京天平祭」の認知度・来場状況（問15）

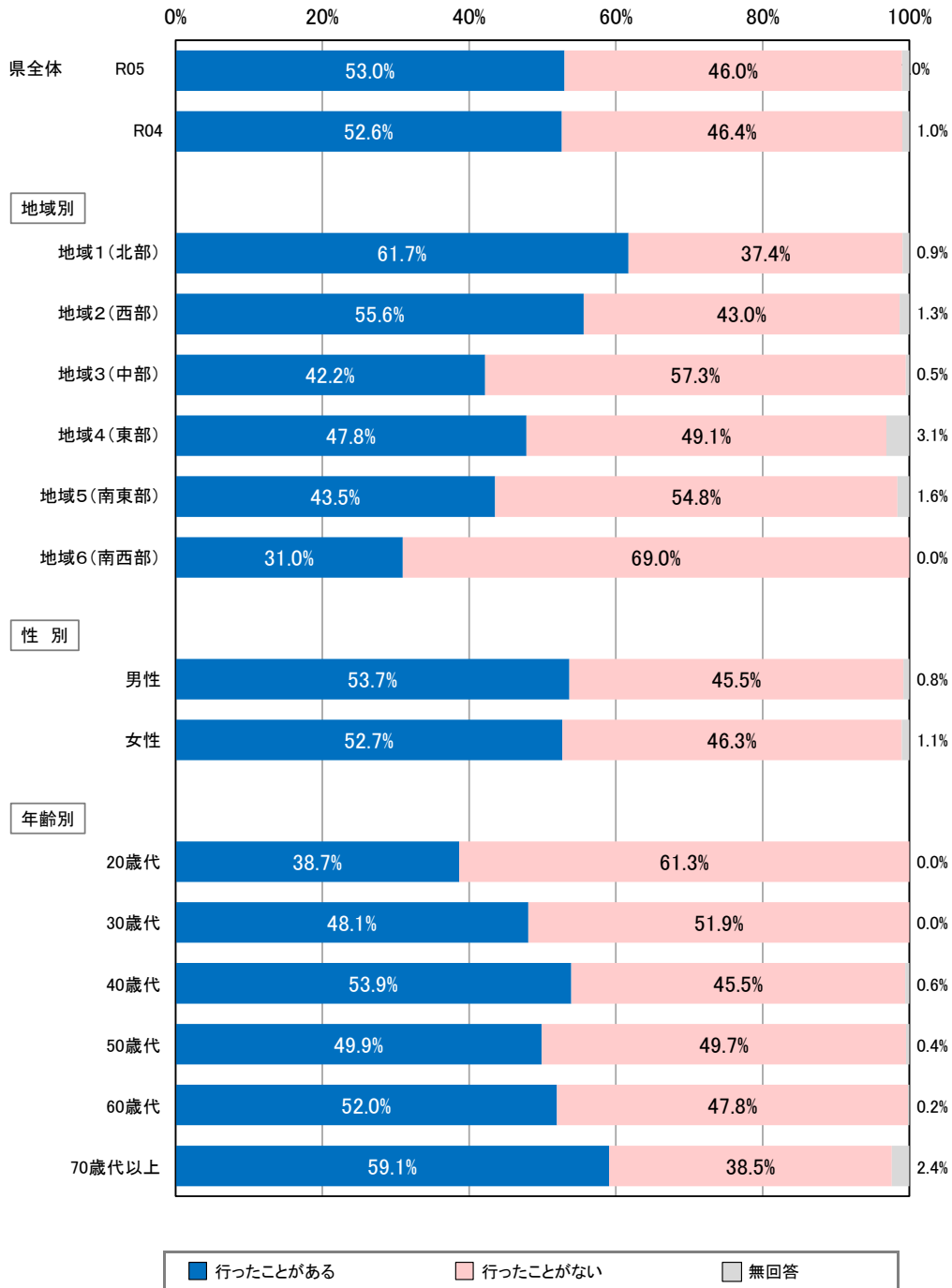
- 「平城京天平祭」の認知度については、「行ったことがある」（「知っていて、よく行く」+「知っていて、行ったことがある」）人は 17.1% で、「知っているが、行ったことはない」も含めた「知っている」人は 59.7% で、令和4年度（59.7%）と比べて横ばいとなっています。
- 地域別にみると、「行ったことがある」人が最も多いのは『地域1（北部）』（22.8%）で、次いで『地域2（西部）』（15.2%）となっています。一方、『地域4（東部）』（8.8%）や『地域6（南西部）』（8.3%）では、「行ったことがある」人は1割未満と少なくなっています。「知っている」人の割合が最も多いのは『地域1（北部）』（68.7%）となっています。
- 「行ったことがある」人の割合を性別にみると、『男性』（16.8%）と『女性』（17.4%）でほぼ同程度となっています。「知っている」人の割合も、『男性』（59.2%）と『女性』（60.1%）でほぼ同程度となっています。
- 「行ったことがある」人の割合を年齢別にみると、『70歳代以上』（19.1%）が最も多くなっています。「知っている」人の割合が最も多いのも『70歳代以上』（69.5%）となっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(4) 「朱雀門ひろば」の来場状況 (問16)

- 「朱雀門ひろば」の利用経験については、「行ったことがある」人は 53.0%で、「行ったことがない」人(46.0%)より多くなっています。「行ったことがある」人は令和4年度(52.6%)と比べて横ばいとなっています。
- 地域別にみると、「行ったことがある」人が最も多いのは『地域1(北部)』(61.7%)で、次いで『地域2(西部)』(55.6%)となっています。一方、『地域6(南西部)』(31.0%)では、「行ったことがある」人は約3割と少なくなっています。
- 「行ったことがある」人の割合を性別にみると、『男性』(53.7%)の方が『女性』(52.7%)より1.0ポイント多くなっています。
- 「行ったことがある」人の割合を年齢別にみると、『70歳代以上』(59.1%)が最も多く、『20歳代』(38.7%)が最も少なくなっています。

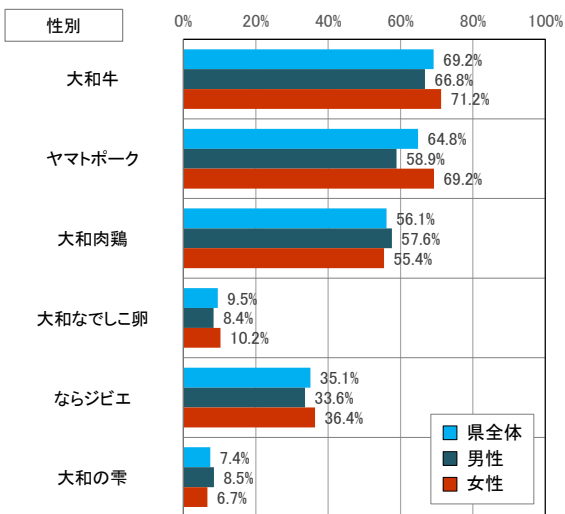
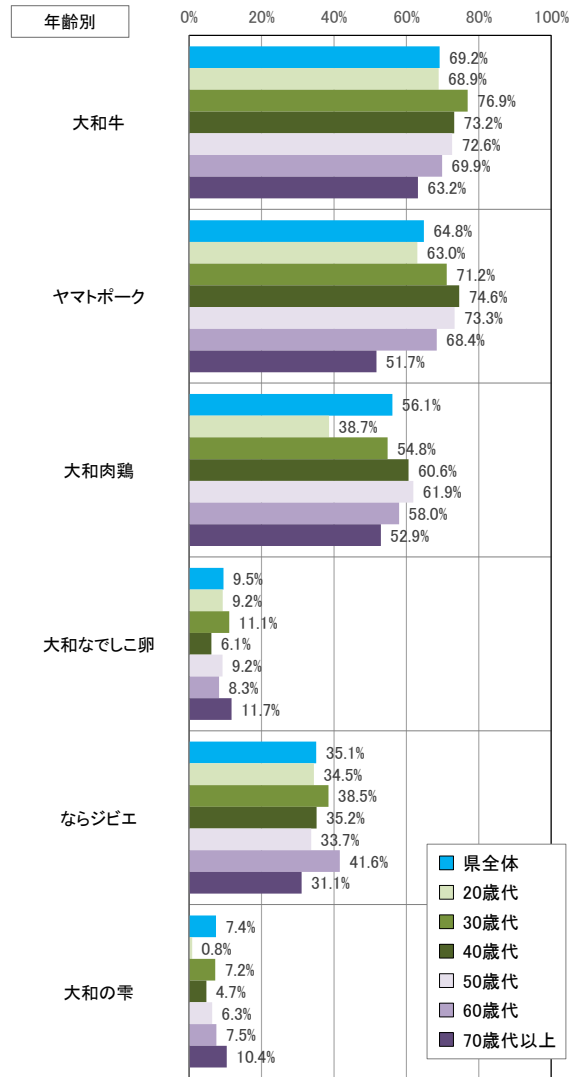
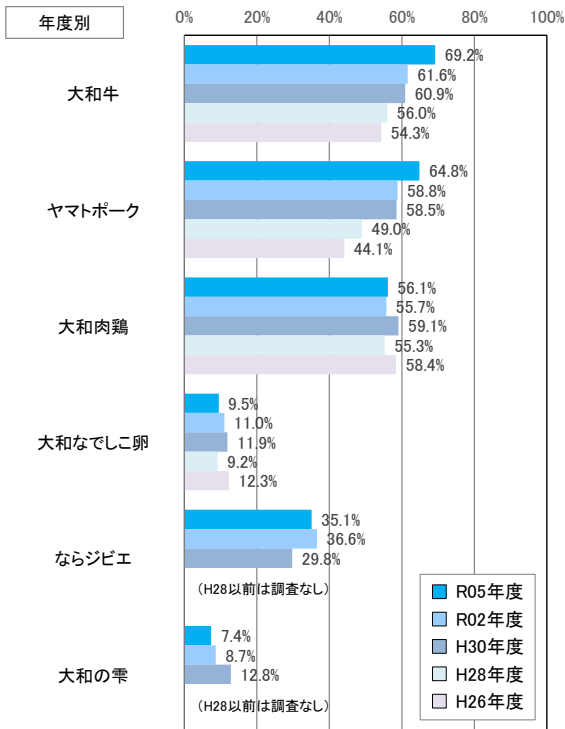


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

4. 農林業【栄える「都」をつくる】

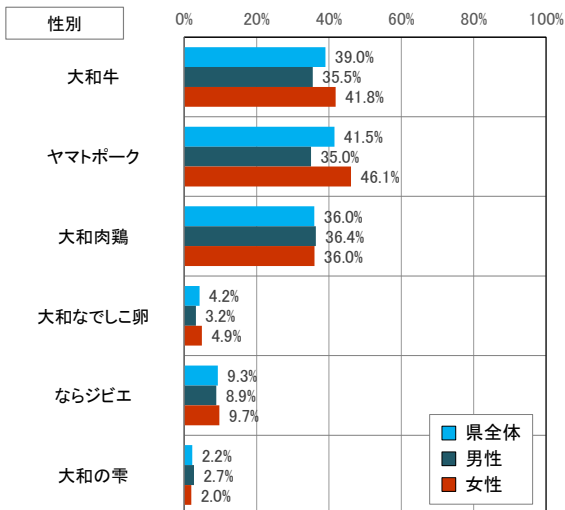
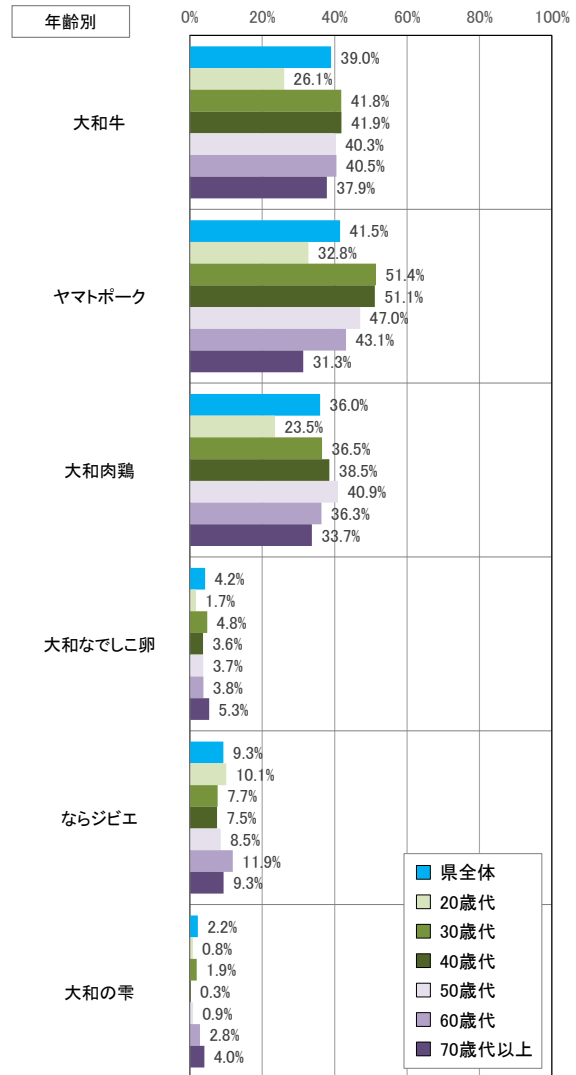
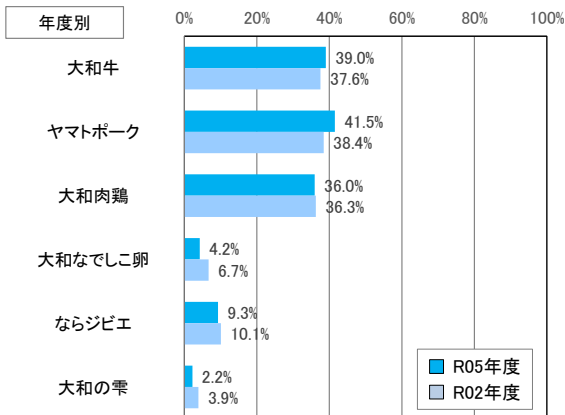
(1) 県内産食材の認知度 (問 17-1 それぞれ単数回答)

- 県内産食材の認知度については、「大和牛」(69.2%)が最も高く、次いで「ヤマトポーク」(64.8%)、「大和肉鶏」(56.1%)、「ならジビエ」(35.1%)となっています。一方、「大和なでしこ卵」(9.5%)、「大和の雫」(7.4%)は1割未満と低くなっています。
- 過去調査と比較すると、「大和牛」「ヤマトポーク」は継続して増加傾向がみられます。一方、「大和の雫」はやや減少傾向にあります。「大和肉鶏」、「大和なでしこ卵」は大きな変化はなく横ばい傾向、「ならジビエ」は平成30年度から令和2年度にかけて増加しましたが、令和2年度から今回調査にかけては横ばいとなっています。
- 県内産食材の認知度を性別にみると、「大和肉鶏」「大和の雫」の食材以外では『男性』よりも『女性』の方が高くなっており、特に「ヤマトポーク」で差が大きくなっています。
- 県内産食材の認知度を年齢別にみると、「大和牛」については『30歳代』、「ヤマトポーク」については『40歳代』、「大和肉鶏」については『50歳代』、「ならジビエ」については『60歳代』、「大和なでしこ卵」、「大和の雫」については『70歳代以上』が最も高くなっています。



(2) 県内産食材の購入又は飲食の有無（問17-2 それぞれ単数回答）

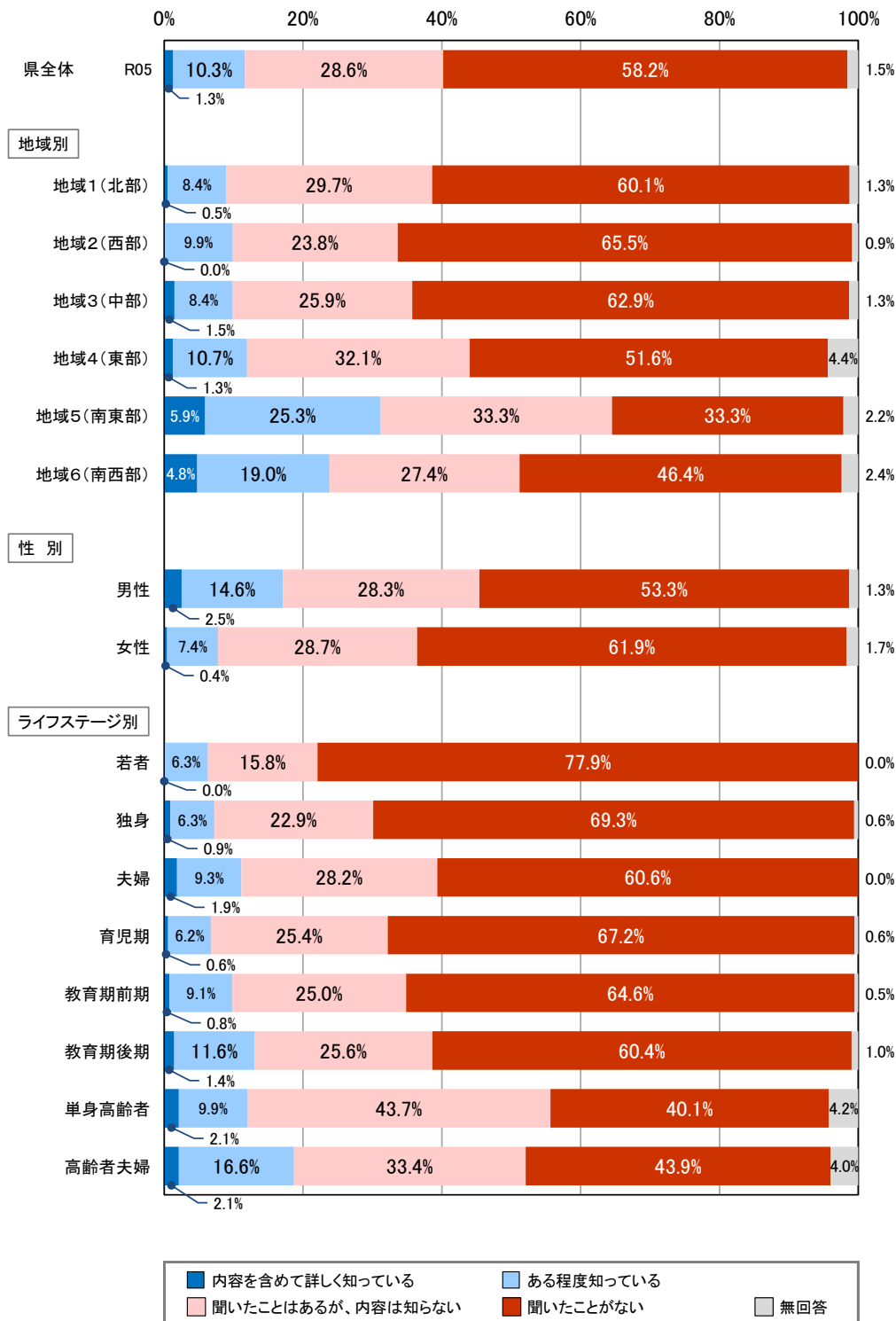
- 県内産食材を県内で「購入又は飲食したことがある」と答えた割合は、「ヤマトポーク」(41.5%)が最も高く、次いで「大和牛」39.0%、「大和肉鶏」(36.0%)となっています。一方、「ならジビエ」(9.3%)、「大和なでしこ卵」(4.2%)、「大和の雫」(2.2%)は1割未満と低くなっています。*問17①で「知らない」と回答した人及び無回答の人を含む全有効回答件数に占める割合
- 令和2年度と比較すると、県内産食材を県内で「購入又は飲食をしたことがある」と答えた割合は、「ヤマトポーク」「大和牛」については増加、「大和なでしこ卵」、「大和の雫」については減少しており、他の食材については横ばいとなっています。
- 県内産食材を県内で「購入又は飲食をしたことがある」と答えた割合を性別にみると、「大和牛」、「ヤマトポーク」「大和なでしこ卵」については『男性』よりも『女性』の方が高く、他の食材については男女同程度となっています。
- 県内産食材を県内で「購入又は飲食をしたことがある」と答えた割合を年齢別にみると、「大和牛」については『40歳代』、「ヤマトポーク」については『30歳代』、「大和肉鶏」については『50歳代』、「ならジビエ」については『60歳代』、「大和なでしこ卵」、「大和の雫」については『70歳代以上』が最も多くなっています。



5. 暮らしやすいまちづくり【愉しむ「都」をつくる】

(1) 「奈良の木」の認知度 (問19)

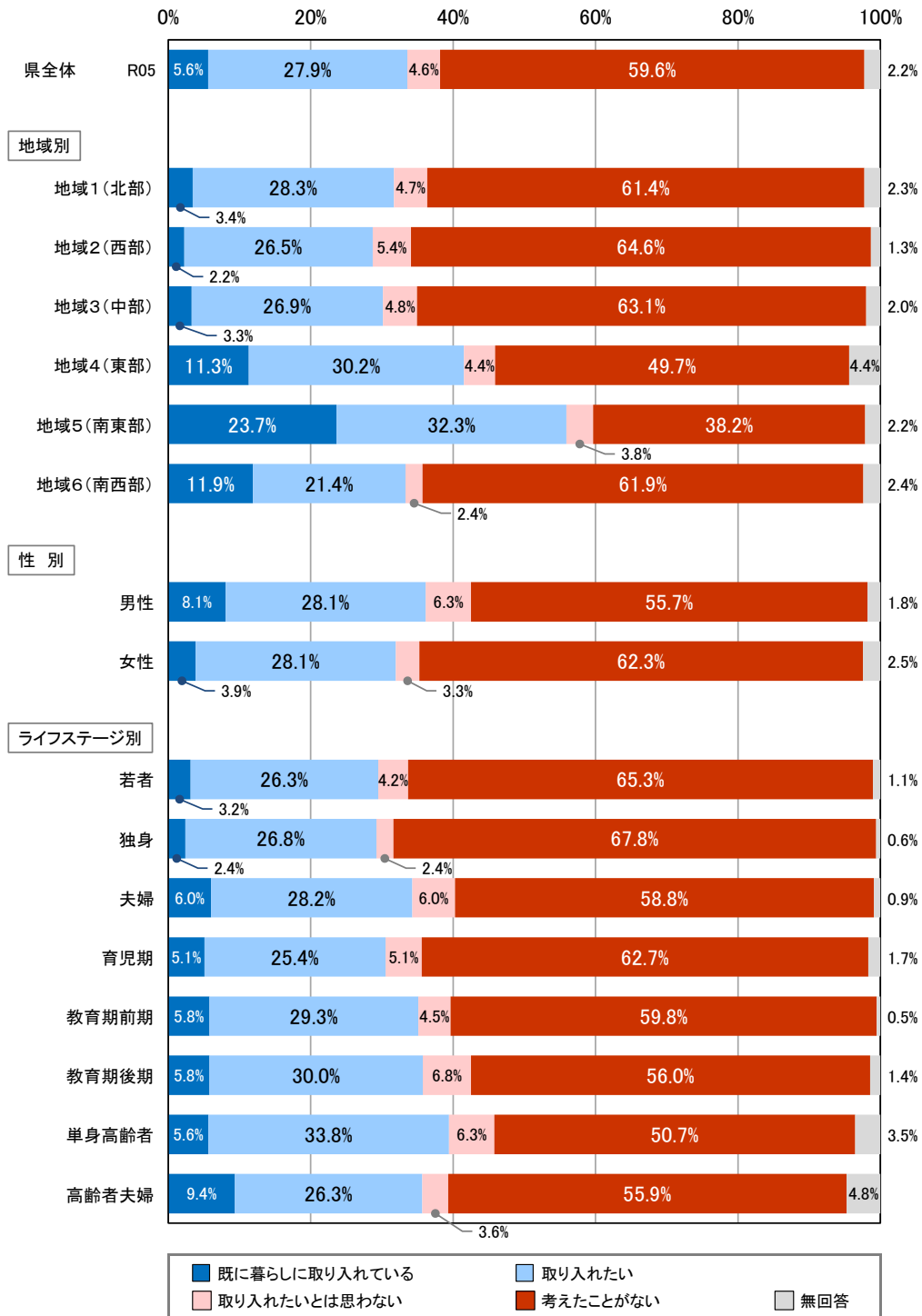
- 「奈良の木」の認知度については、「知っている」(「内容を含めて詳しく知っている」+「ある程度知っている」+「聞いたことはあるが、内容は知らない」)人は40.2%となっています。
- 地域別にみると、「知っている」人が最も多いのは『地域5(南東部)』(64.5%)で、次いで『地域6(南西部)』(51.2%)、『地域4(東部)』(44.0%)となっています。その他の地域では3割台となっています。
- 性別にみると、「知っている」人の割合は『男性』(45.4%)の方が、『女性』(36.4%)より9.0ポイント多くなっています。
- ライフステージ別にみると、「知っている」人の割合は、『単身高齢者』(55.6%)、『高齢者夫婦』(52.1%)で5割以上と多く、『若者』(22.1%)で2割強と少なくなっています。その他のライフステージでは、「知っている」人の割合は3割台となっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(2) 「奈良の木」の暮らしへの取り入れ意向 (問20)

- 「奈良の木」の暮らしへの取り入れ意向については、「考えたことがない」人(59.6%)が約6割と多くを占めており、「既に暮らしに取り入れている」人は5.6%、「取り入れたい」人は27.9%となっています。
- 地域別にみると、「既に暮らしに取り入れている」人が最も多いのは『地域5(南東部)』(23.7%)で、次いで『地域6(南西部)』(11.9%)、『地域4(東部)』(11.3%)となっています。『地域5(南東部)』、『地域4(東部)』以外の地域では、「考えたことがない」が6割台と多くなっています。
- 性別にみると、「既に暮らしに取り入れている」人の割合は『男性』(8.1%)の方が、『女性』(3.9%)より4.2ポイント多くなっています。
- ライフステージ別にみると、「既に暮らしに取り入れている」人の割合は、『高齢者夫婦』(9.4%)で最も多く、『独身』(2.4%)、『若者』(3.2%)で少なくなっています。その他のライフステージでは、「既に暮らしに取り入れている」人の割合は5~6%となっています。

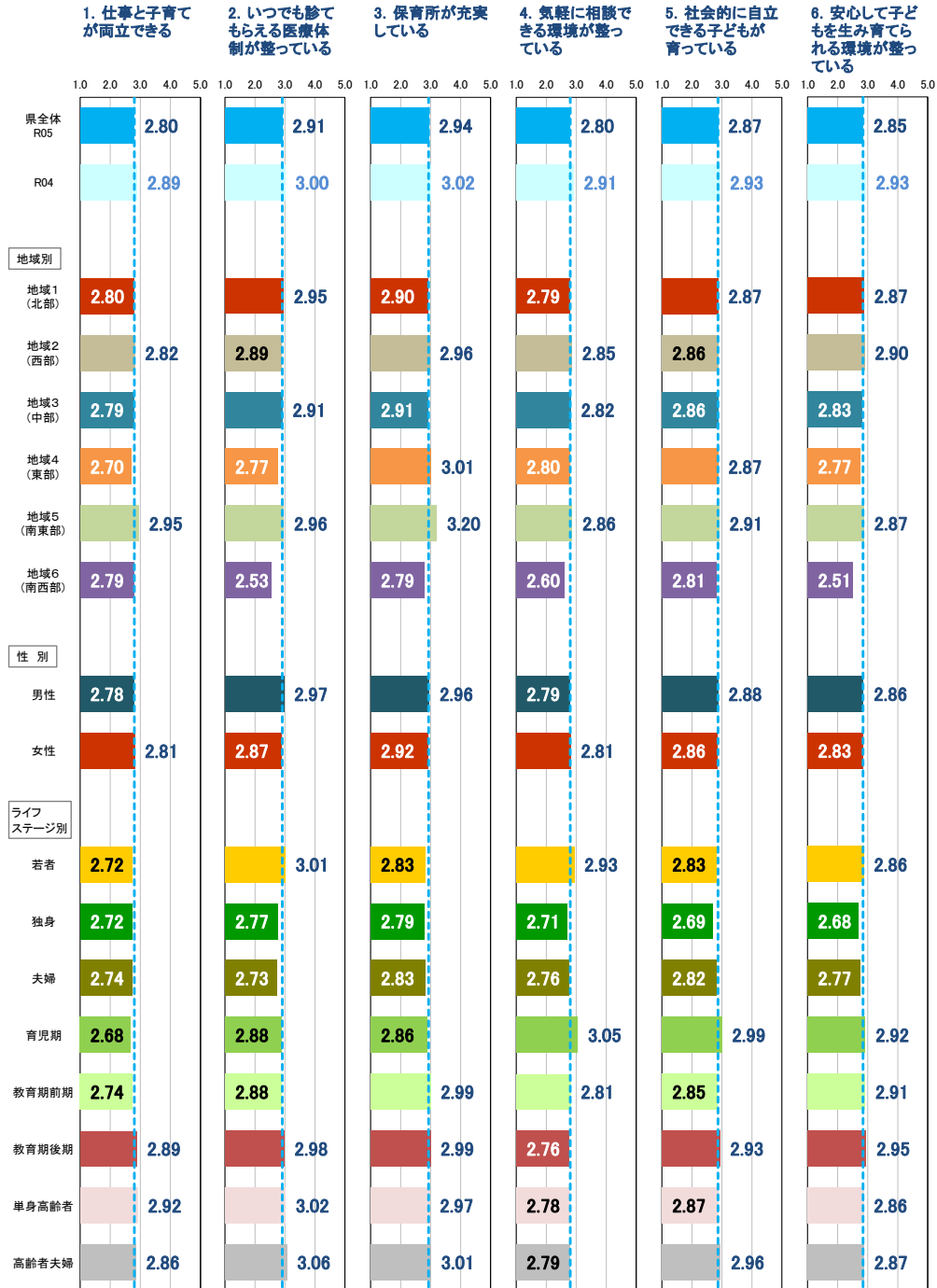


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

6. 少子化対策【愉しむ「都」をつくる】

(1) 子育てに関する満足度 (問21)

- 子育てに関する6項目の満足度を5点(高い)～1点(低い)の5段階で評価しました。
- 満足度は、「3. 保育所が充実している」が2.94ポイントで6項目の中で一番高くなっています。
- 令和4年度と比較すると、すべての項目で満足度が低下しています。
- 地域別にみると、『地域5(南東部)』はすべての項目で県全体の満足度より高くなっています。一方、『地域6(南西部)』は全項目で県全体の満足度より低くなっています。
- 性別にみると、「1. 仕事と子育てが両立できる」、「4. 気軽に相談できる環境が整っている」では『女性』で県全体の満足度より高くなっており、その他の項目では『男性』で県全体の満足度より高くなっています。
- ライフステージ別にみると、『教育期後期』、『高齢者夫婦』では6項目中5項目で県全体の満足度より高くなっています。一方、『独身』、『夫婦』ではすべての項目で県全体の満足度より低くなっています。



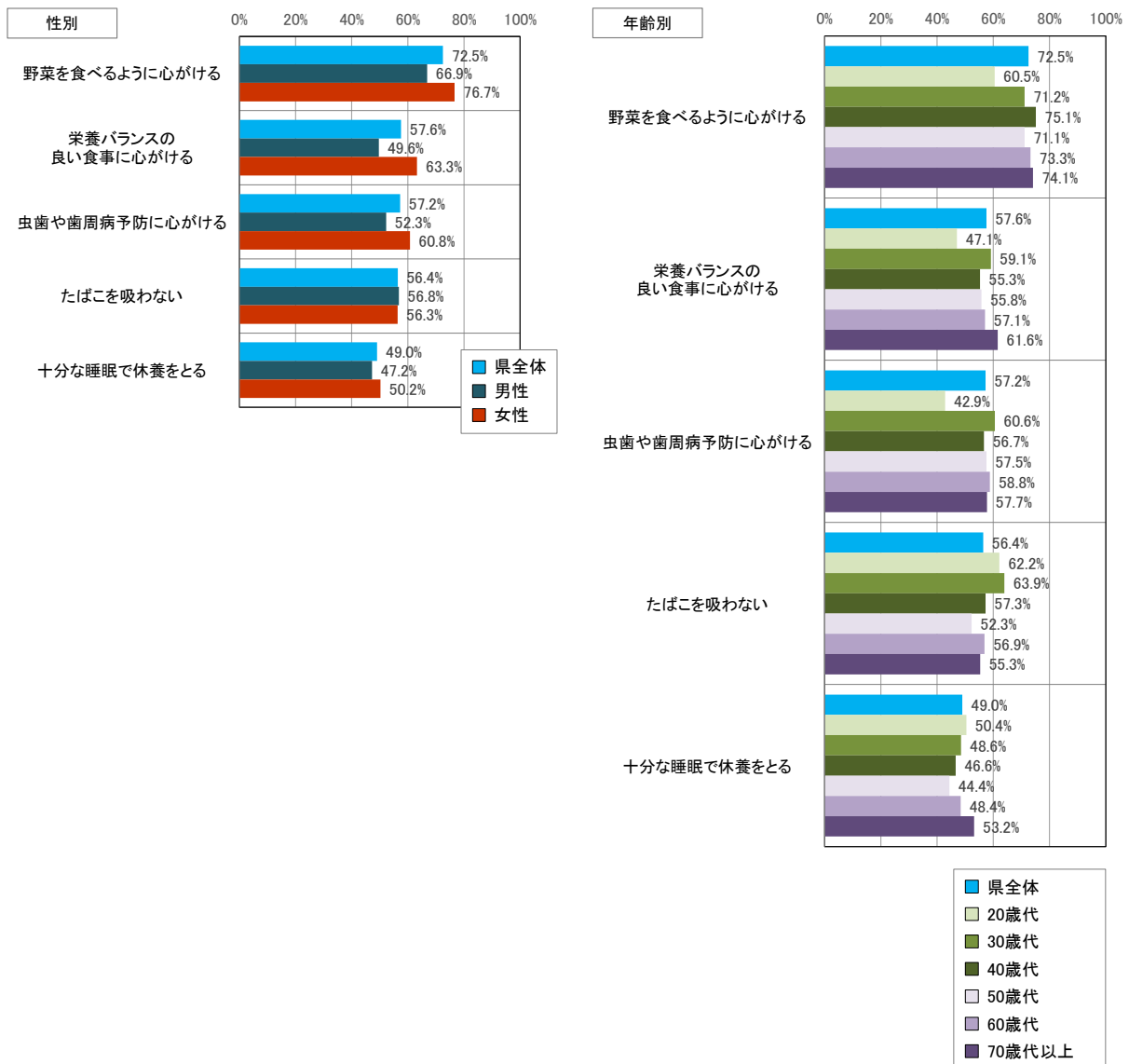
※棒グラフの外側に示した数値は、令和5年度の県全体よりも高いもの。-----は、令和5年度の県全体の値。
 ※グラフ上の数値は小数点第2位までの記載となっておりますが、県全体の値との比較にあたっては、
 小数点第2位以下の数値まで考慮してラベル位置や上部コメント欄の記載に反映しています。

7. 健康づくり【健やかな「都」をつくる】

(1) 自らの健康づくりの取組状況及び今後の意向

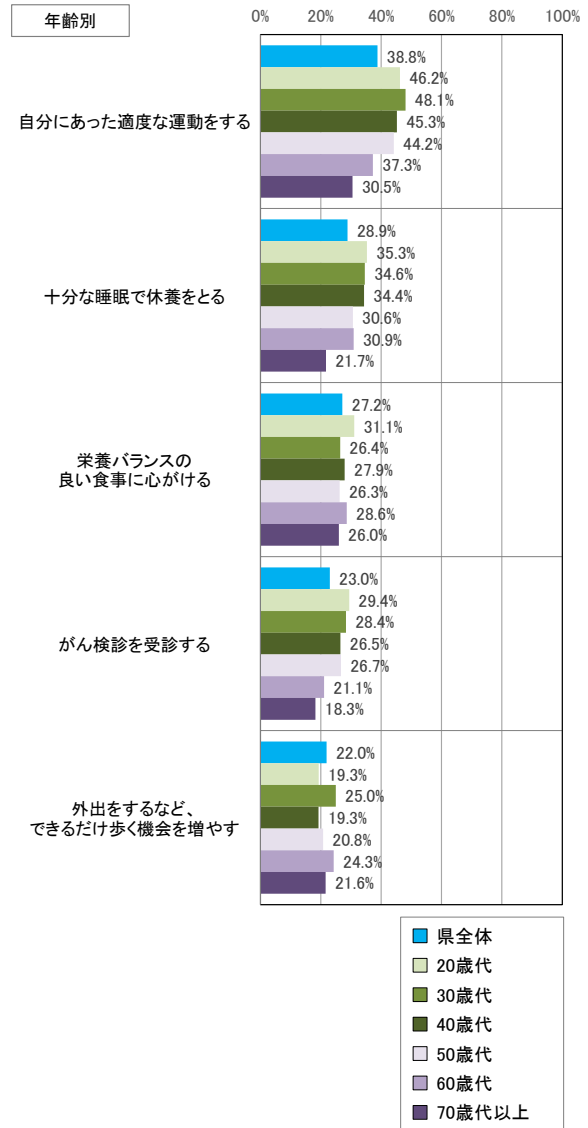
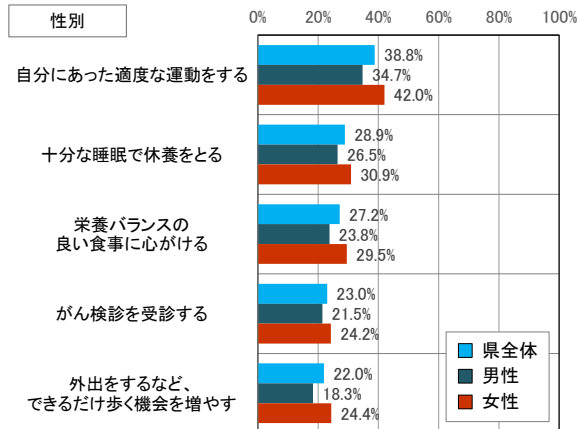
① この1年間にした健康づくり（問 23-1 複数回答 県全体についての上位5個項目を掲載）

- この1年間に自らの健康づくりのためにしたことは、「野菜を食べるように心がける」(72.5%)が最も多く、次いで、「栄養バランスの良い食事に心がける」(57.6%)、「虫歯や歯周病予防に心がける」(57.2%)、「たばこを吸わない」(56.4%)、「十分な睡眠で休養をとる」(49.0%)となっています。
- 性別にみると、「たばこを吸わない」以外の項目で『女性』の方が『男性』より多くなっており、特に「栄養バランスの良い食事に心がける」では13.6ポイントと差が大きくなっています。
- 年齢別にみると、『20歳代』では「たばこを吸わない」が、その他の年代では「野菜を食べるように心がける」が最も多くなっています。次に『20歳代』では「野菜を食べるように心がける」が、『30歳代』、『40歳代』では「たばこを吸わない」が、『50歳代』、『60歳代』では「虫歯や歯周病予防に心がける」が、『70歳代以上』では「栄養バランスの良い食事に心がける」が多くなっています。



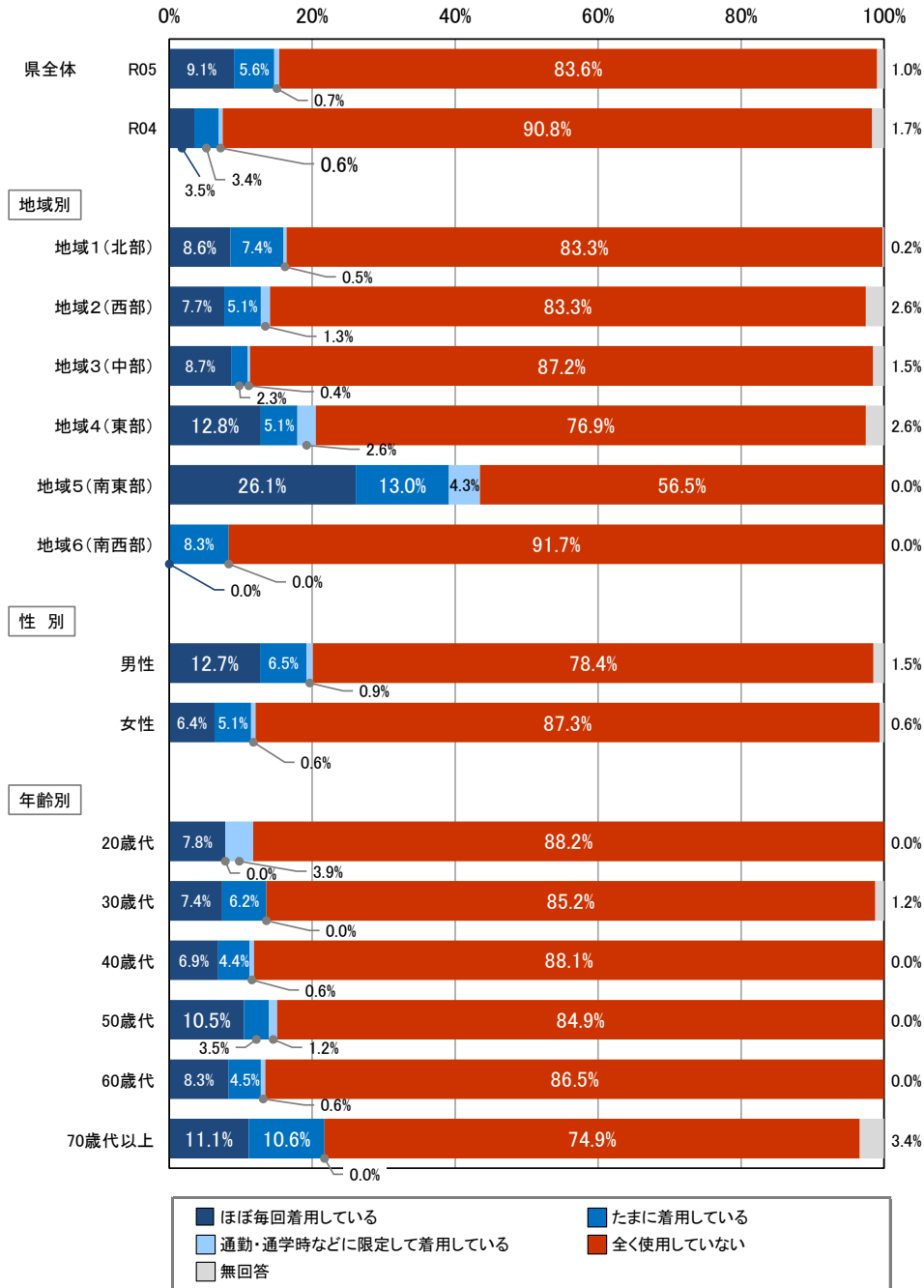
② 今後したい健康づくり（問 23-2 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5個項目を掲載）

- 今後、どのような健康づくりをしたいかは、「自分にあつた適度な運動をする」(38.8%)が最も多く、次いで「十分な睡眠で休養をとる」(28.9%)、「栄養バランスの良い食事に心がける」(27.2%)、「がん検診を受診する」(23.0%)、「外出をするなど、できるだけ歩く機会を増やす」(22.0%)となっています。
- 性別にみると、全ての項目で『女性』の方が『男性』より多くなっており、「自分にあつた適度な運動をする」で7.3ポイントと差が最も大きくなっています。
- 年齢別にみると、「自分にあつた適度な運動をする」は全ての年代で最も多く、次に『70歳代以上』では「栄養バランスの良い食事に心がける」、その他の年代では「十分な睡眠で休養をとる」が多くなっています。



(2) 自転車利用時の乗車用ヘルメットの着用状況 (問27)

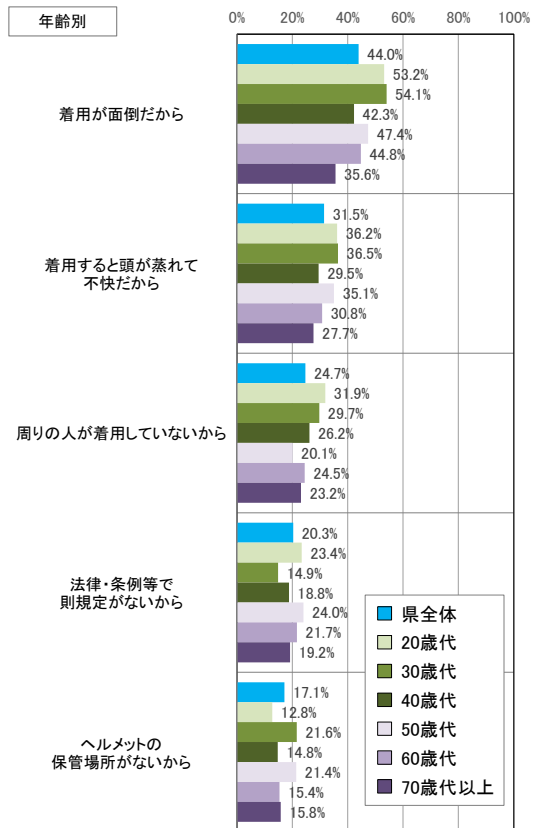
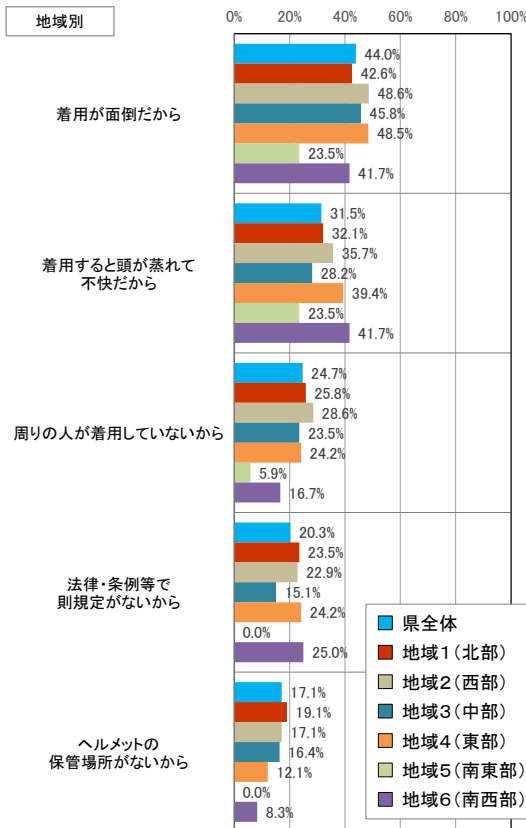
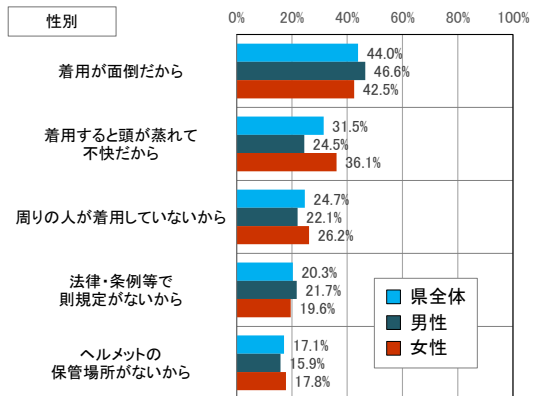
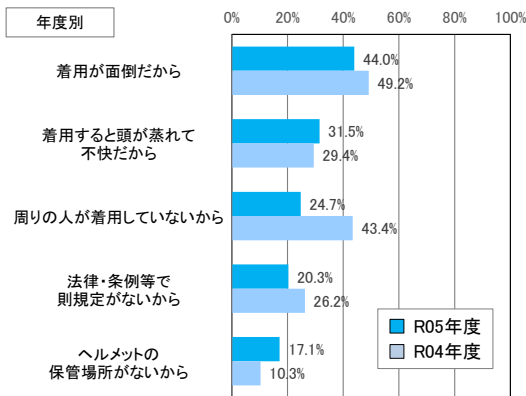
- 自転車利用時の乗車用ヘルメットの着用状況については、「着用している」(「ほぼ毎回着用している」+「たまに着用している」+「通勤・通学時などに限定して着用している」)人の割合は15.4%で、令和4年度(7.5%)と比べて7.9ポイント増加しています。
- 地域別にみると、「着用している」人の割合は、『地域5(南東部)』(43.5%)が最も多く、次いで『地域4(東部)』(20.5%)、『地域1(北部)』(16.4%)となっています。一方、『地域6(南西部)』(8.3%)では1割弱と少なくなっています。
- 性別にみると、「着用している」人の割合は、『男性』(20.1%)の方が、『女性』(12.1%)より8.0ポイント多くなっています。
- 年齢別にみると、「着用している」人の割合は『70歳代以上』(21.7%)が最も多く、次いで『50歳代』(15.1%)、『30歳代』(13.6%)となっています。一方、『20歳代』が11.8%で最も少なくなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(3) 乗車用ヘルメットを着用しない理由 (問 28 複数回答 県全体についての上位5個項目を掲載)

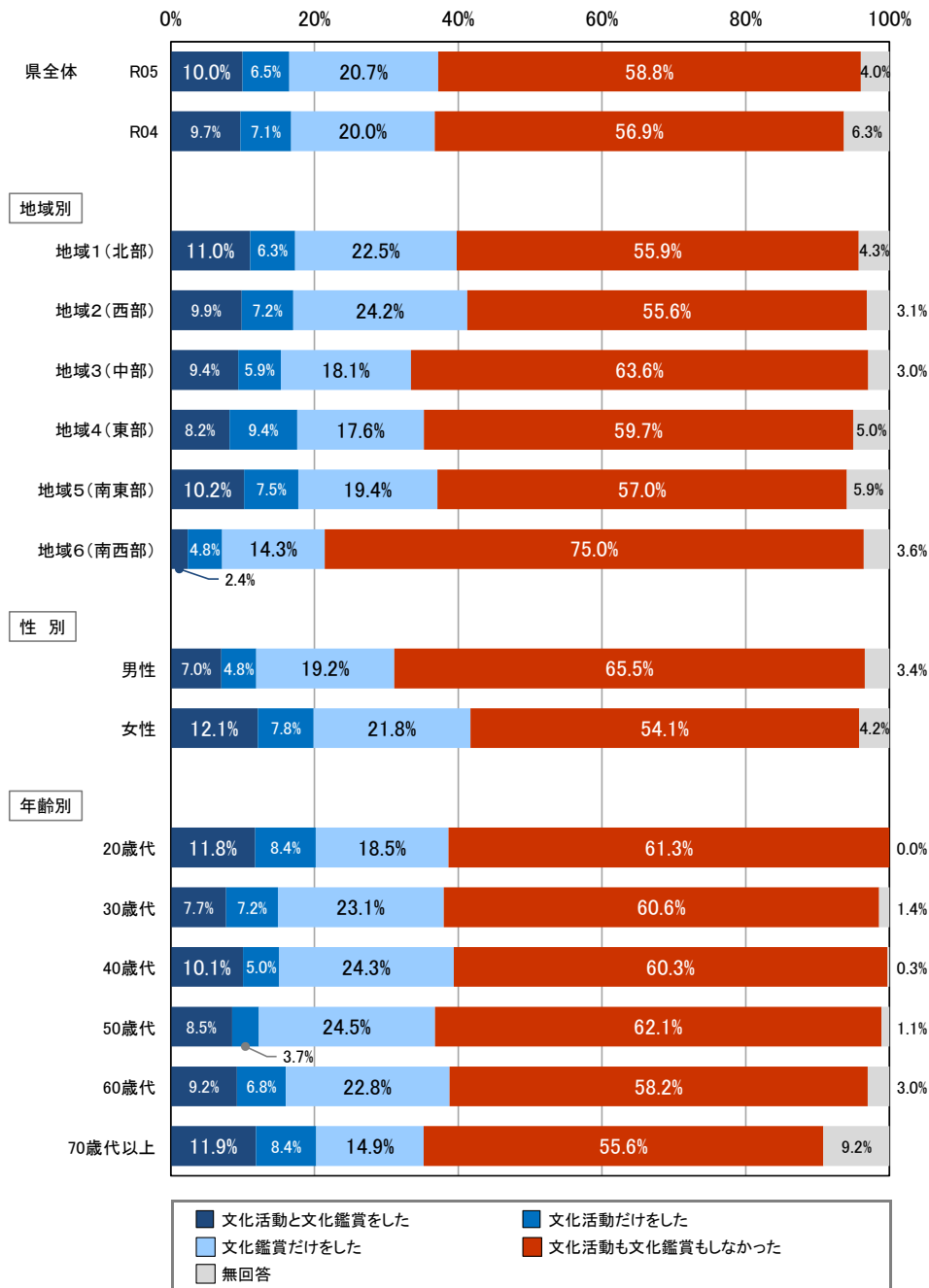
- 乗車用ヘルメットを着用しない理由については、「着用が面倒だから」(44.0%)が最も高く、次いで「着用すると頭が蒸れて不快だから」(31.5%)、「周りの人が着用していないから」(24.7%)となっています。
- 「着用が面倒だから」と答えた人は、令和4年度と比べると5.2ポイント減少しています。地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『男性』、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「着用すると頭が蒸れて不快だから」と答えた人は、令和4年度と比べると2.1ポイント増加しています。地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、性別では『女性』、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「周りの人が着用していないから」と答えた人は、令和4年度と比べると18.7ポイント減少しています。地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『女性』、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「法律・条例等で則規定がないから」と答えた人は、令和4年度と比べると5.9ポイント減少しています。地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、性別では『男性』、年齢別では『50歳代』が最も多くなっています。
- 「ヘルメットの保管場所がないから」と答えた人は、令和4年度と比べると6.9ポイント増加しています。地域別では『地域1(北部)』が最も多く、性別では『女性』、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。



8. 文化振興【智恵の「都」をつくる】

(1) この1年間の文化活動・文化鑑賞の有無 (問31)

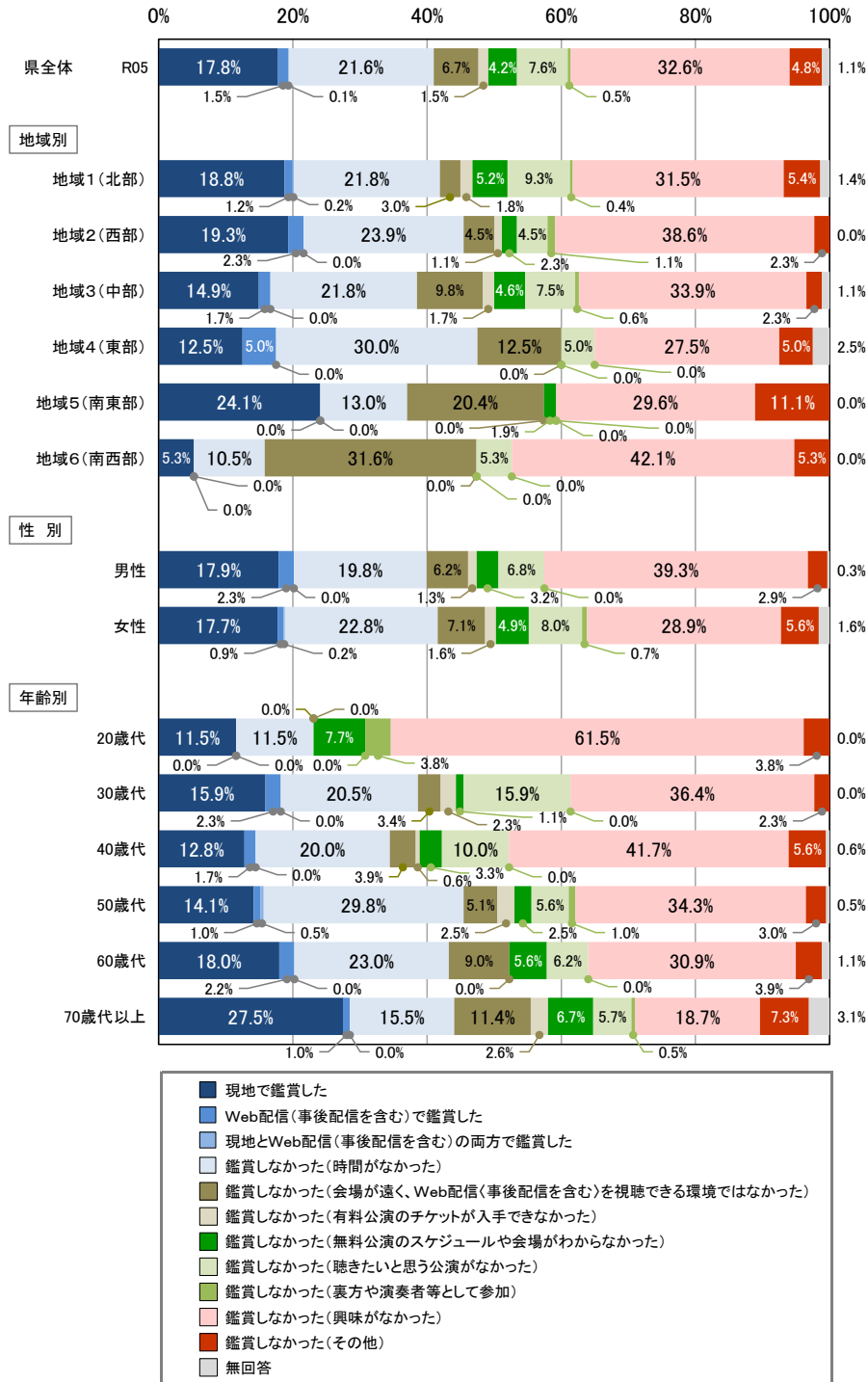
- この1年間の文化活動・文化鑑賞*の有無については、「文化活動または文化鑑賞をした」「文化活動と文化鑑賞をした」「文化活動だけをした」「文化鑑賞だけをした」人の割合は37.2%で、令和4年度(36.7%)と比べて横ばいとなっています。
*「文化活動」とは、習い事や趣味の他、楽器の演奏やダンスなど自ら主体的に行う活動全般をいいます。「文化鑑賞」とは、公演・展覧会など鑑賞全般をいいます。(家庭内での音楽鑑賞等を除きます)
- 地域別にみると、「文化活動または文化鑑賞をした」人の割合は、『地域2(西部)』(41.3%)が最も多く、次いで『地域1(北部)』(39.8%)、『地域5(南東部)』(37.1%)となっています。一方、『地域6(南西部)』(21.4%)では2割強と少なくなっています。
- 性別にみると、「文化活動または文化鑑賞をした」人の割合は、『女性』(41.7%)の方が、『男性』(31.1%)より10.6ポイント多くなっています。
- 年齢別にみると、「文化活動または文化鑑賞をした」人の割合は各年代であまり差がなく、最も多い『40歳代』(39.4%)と最も少ない『70歳代以上』(35.2%)の差は4.2ポイントにとどまっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(2) 「ムジークフェストなら」の鑑賞状況 (問33)

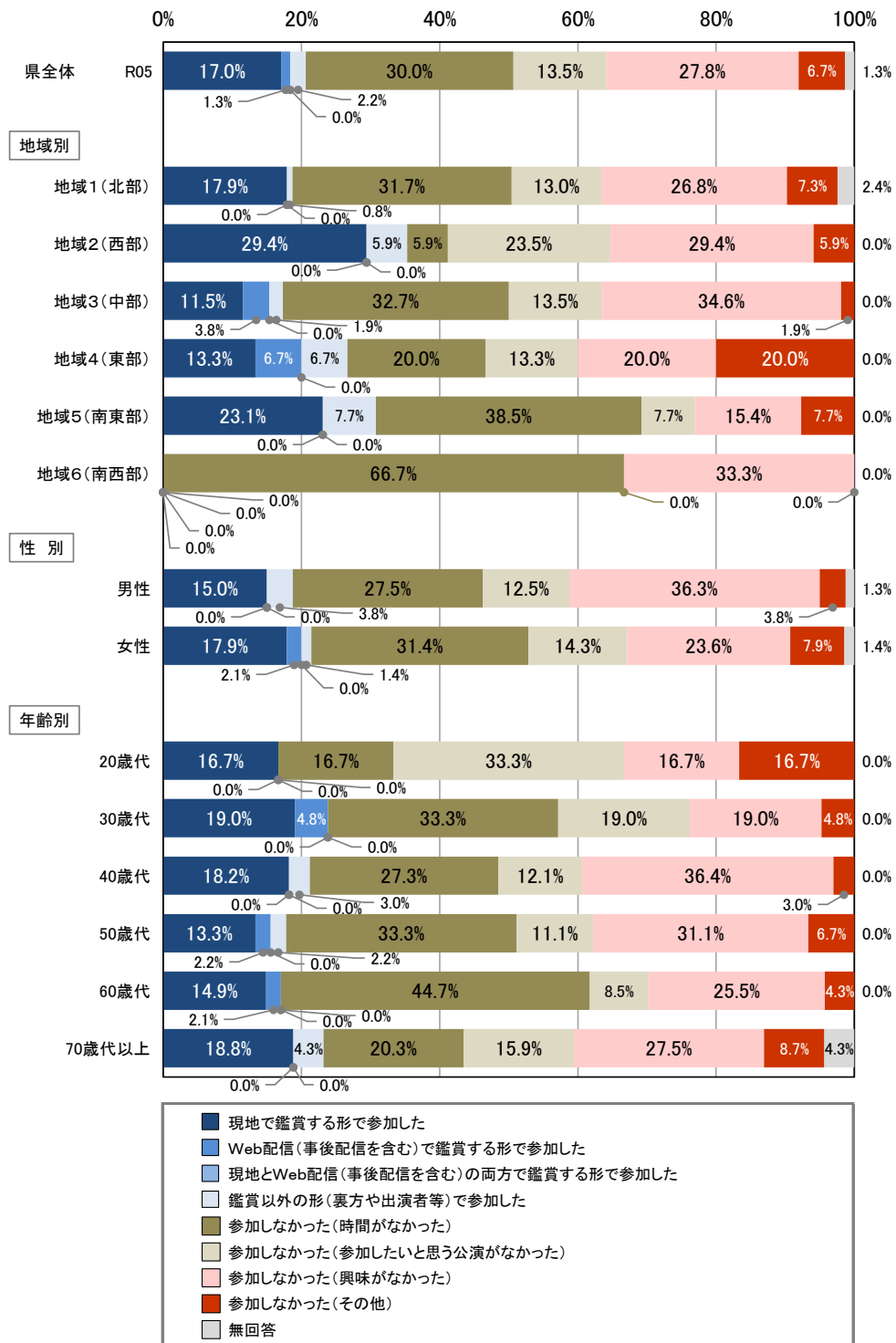
- 「ムジークフェストなら」の鑑賞状況については、「鑑賞した」(「現地で鑑賞した」+「Web配信(事後配信を含む)で鑑賞した」+「現地とWeb配信(事後配信を含む)の両方で鑑賞した」)人の割合は19.4%となっています。「鑑賞しなかった」人では、「鑑賞しなかった(興味がなかった)」(32.6%)が最も多く、次いで「鑑賞しなかった(時間がなかった)」(21.6%)となっています。
- 「鑑賞した」人を地域別にみると、『地域5(南東部)』(24.1%)が最も多く、次いで『地域2(西部)』(21.6%)、『地域1(北部)』(20.2%)が2割以上となっています。一方、『地域6(南西部)』(5.3%)では1割未満と少なくなっています。
- 「鑑賞した」人を性別にみると、『男性』(20.1%)の方が『女性』(18.8%)より1.3ポイント多くなっています。一方、『男性』では「鑑賞しなかった(興味がなかった)」(39.3%)が『女性』(28.9%)より10.4ポイント多くなっています。
- 「鑑賞した」人を年齢別にみると、『70歳代以上』(28.5%)が最も多く、次いで『60歳代』(20.2%)となっています。一方、『20歳代』では「鑑賞しなかった(興味がなかった)」が最も61.5%と多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(3) 「奈良県みんなでのしむ大芸術祭」の鑑賞状況 (問35)

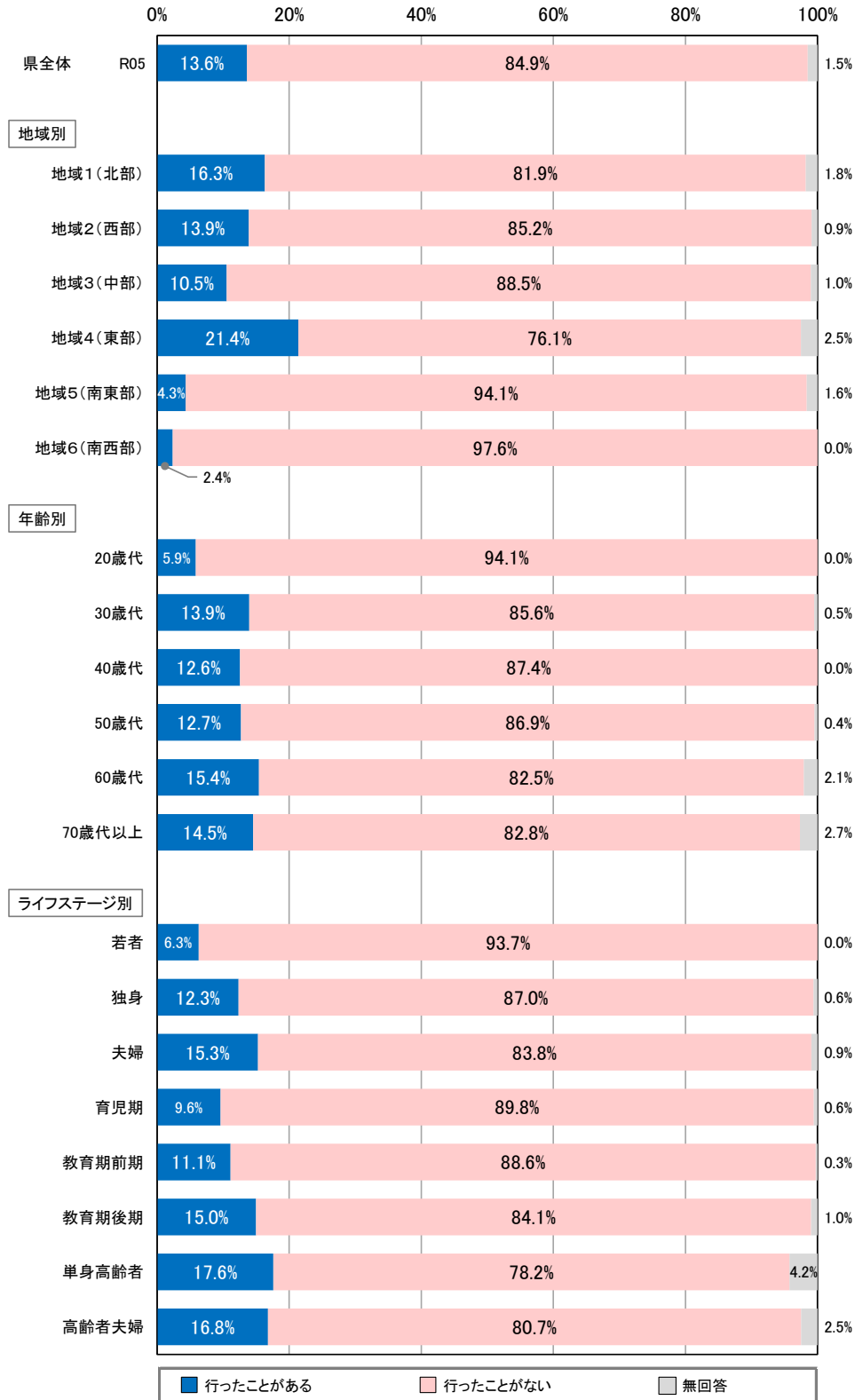
- 「奈良県みんなでのしむ大芸術祭」の鑑賞状況については、「鑑賞した」(「現地で鑑賞する形で参加した」+「Web 配信(事後配信を含む)」で鑑賞する形で参加した)+「現地とWeb 配信(事後配信を含む)の両方で鑑賞する形で参加した」人の割合は18.4%となっています。「鑑賞しなかった」人では、「鑑賞しなかった(時間がなかった)」(30.0%)が最も多く、次いで「鑑賞しなかった(興味がなかった)」(27.8%)となっています。
- 「鑑賞した」人を地域別にみると、『地域2(西部)』(29.4%)が最も多く、次いで『地域5(南東部)』(23.1%)、『地域4(東部)』(20.0%)が2割以上となっています。一方、『地域6(南西部)』(0.0%)では「鑑賞した」人はみられません。
- 「鑑賞した」人を性別にみると、『女性』(20.0%)の方が『男性』(15.0%)より5.0ポイント多くなっています。『男性』では「鑑賞しなかった(興味がなかった)」(36.3%)が『女性』(23.6%)より12.7ポイント多くなっています。
- 「鑑賞した」人を年齢別にみると、『30歳代』(23.8%)が最も多く、唯一2割を超えています。一方、『60歳代』では「鑑賞しなかった(時間がなかった)」が44.7%と最も多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(4) 「なら歴史芸術文化村」の訪問の有無 (問36)

- 「なら歴史芸術文化村」の訪問有無については、「行ったことがある」人は 13.6%となっており、「行ったことがない」人が 84.9%を占めています。
- 「行ったことがある」人を地域別にみると、『地域4(東部)』(21.4%)が最も多くなっています。一方、『地域5(南東部)』(4.3%)と『地域6(南西部)』(2.4%)では5%未満と少なくなっています。
- 「行ったことがある」人を年齢別にみると、『20歳代』(5.9%)以外はいずれの年代でも13~15%となっています。
- 「行ったことがある」人をライフステージ別にみると、『単身高齢者』(17.6%)が最も多く、次いで『高齢者夫婦』(16.8%)となっています。一方、『若者』(6.3%)、『育児期』(9.6%)では、1割未満と少なくなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(5) 音楽活動充実に向けて必要だと思う取り組み (問37 複数回答)

■ 音楽活動充実に向けて必要だと思う取り組みについて尋ねたところ、「子ども向けの演奏会・楽器に触れることができるイベントの開催」(43.1%)が最も多く、次いで「県内社寺等を活用するなど、音楽とともに奈良県の魅力を発信」(37.3%)、「アウトリーチ(学校等に向向いて子どもへの楽器指導や交流を実施)」(34.8%)、「チケット販売の際に県民枠を設けるなど、県民が参加しやすい演奏会の開催」(28.3%)、「プロを目指す子どもの育成」(16.1%)となっています。

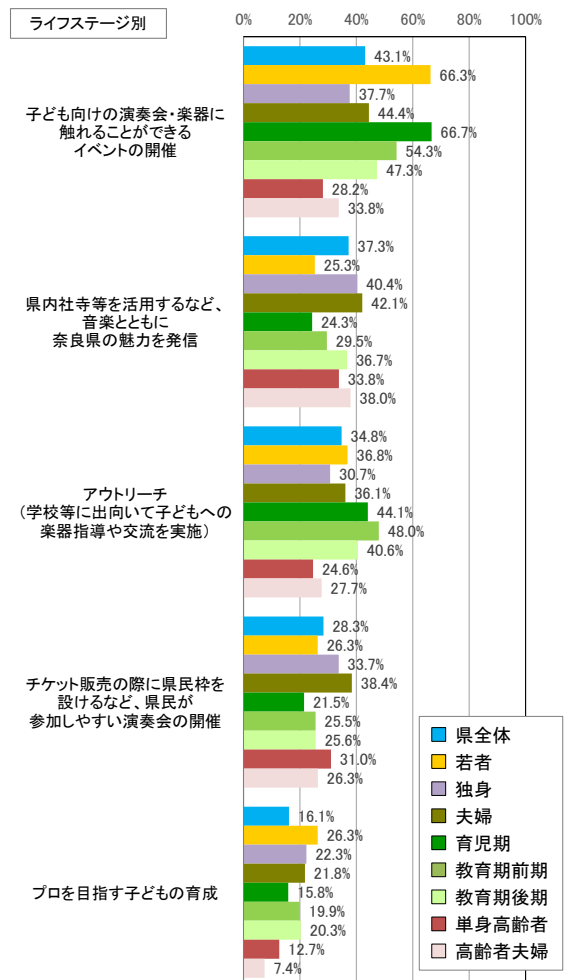
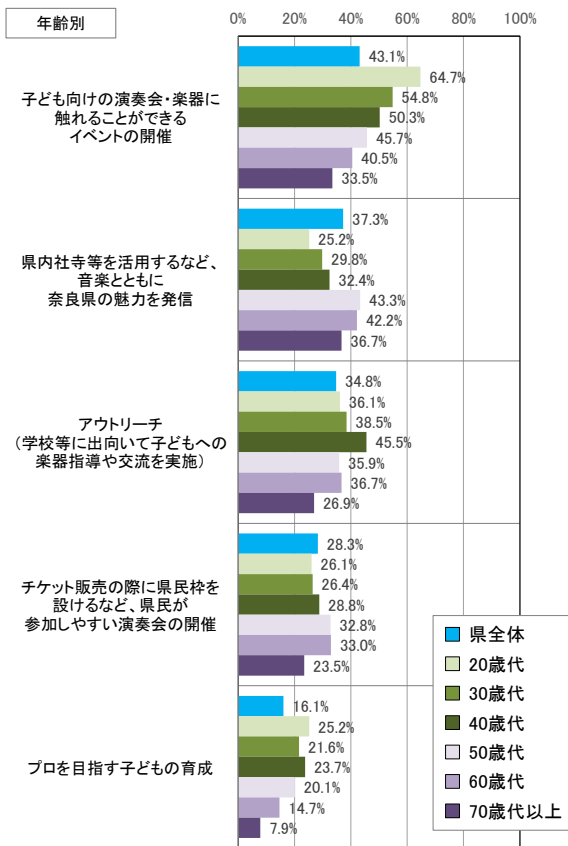
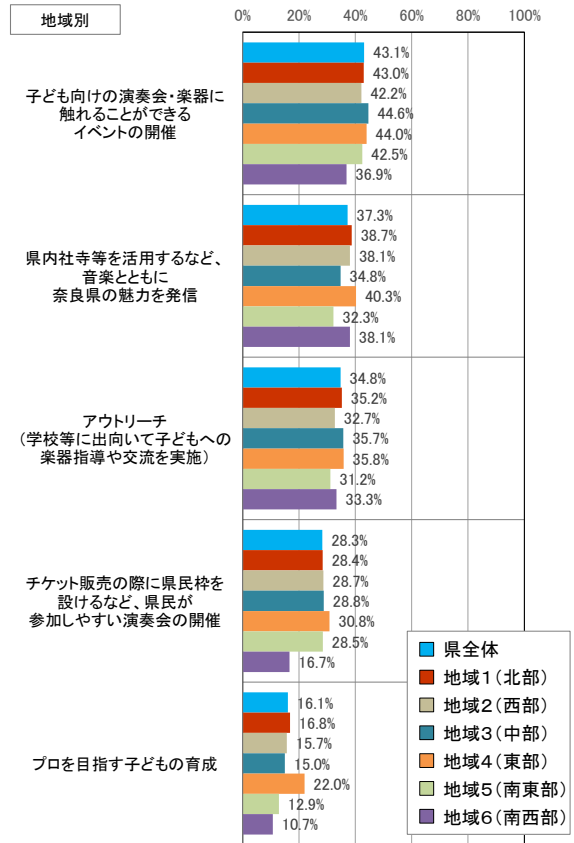
■ 「子ども向けの演奏会・楽器に触れることができるイベントの開催」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』以外で4割台前半と多く、年齢別では『20歳代』、ライフステージ別では『育児期』『若者』で6割を超えて多くなっています。

■ 「県内社寺等を活用するなど、音楽とともに奈良県の魅力を発信」と答えた人は、地域別では『地域4(東部)』、年齢別では『50歳代』、ライフステージ別では『夫婦』が最も多くなっています。

■ 「アウトリーチ」と答えた人は、地域別では『地域4(東部)』で最も多くなっています。年齢別では『40歳代』、ライフステージ別では『教育期前期』が最も多くなっています。

■ 「チケット販売の際に県民枠を設けるなど、県民が参加しやすい演奏会の開催」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』以外では3割弱～約3割と高くなっています。年齢別では『60歳代』、ライフステージ別では『夫婦』が最も多くなっています。

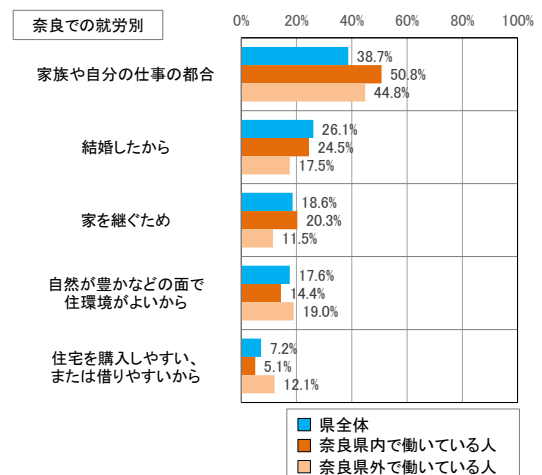
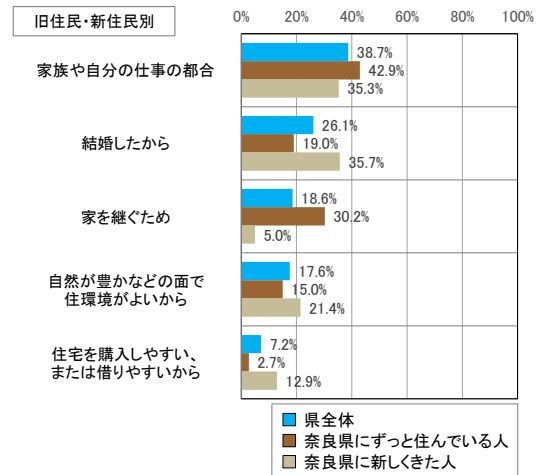
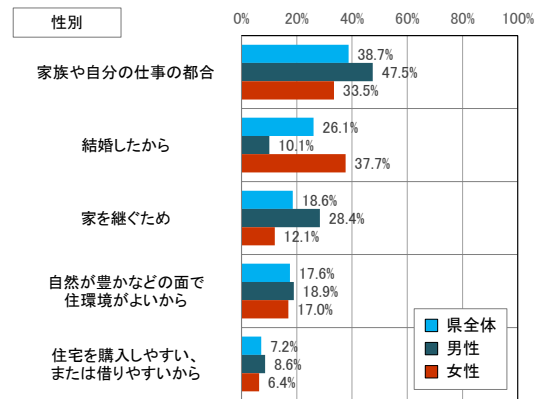
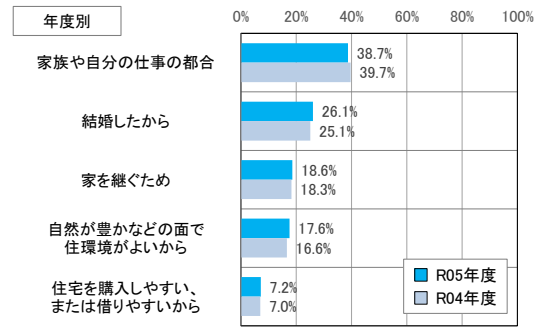
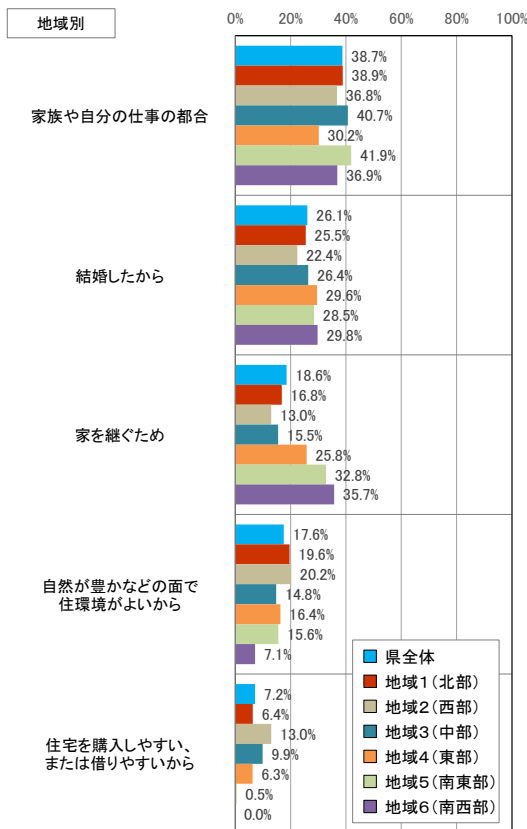
■ 「プロを目指す子どもの育成」と答えた人は、地域別では『地域4(東部)』、年齢別では『20歳代』、ライフステージ別では『若者』が最も多くなっています。



9. 回答者に関すること

(1) 奈良での居住理由 (問 46 2つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 奈良での居住理由について尋ねたところ、「家族や自分の仕事の都合」(38.7%)が最も多く、次いで「結婚したから」(26.1%)、「家を継ぐため」(18.6%)、「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」(17.6%)、「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」(7.2%)となっています。
- 令和4年度と比較すると、1.0ポイントより大きい変化はみられません。
- 「家族や自分の仕事の都合」と答えた人は、地域別では『地域5(南東部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「結婚したから」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家を継ぐため」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



令和5年度
県民アンケート調査
報告書
<概要版>

令和5年12月

奈良県総務部知事公室統計分析課
〒630-8501 奈良市登大路町30番地
電話 0742-27-8473
